

図書館・書店等連携実践事例集

令和6年6月
文部科学省



文部科学省

目次

テーマ① 図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

テーマ② 図書館と書店等が連携した経営・運営

テーマ③ 環境整備

テーマ④ その他

地元出版社団体と図書館が共同で行ったデジタルコンテンツの創造 札幌市中央図書館 ...	1
市民と図書館で書店を支える！ 市立留萌図書館	2
図書館・書店・福祉事業所が連携した「地方創生」 幕別町図書館	3
もりおか本屋さんサミット 盛岡市立図書館	4
図書普及向上に向けた連携 塩竈市民図書館	5
図書館に泊まろう 利府町図書館	6
気仙沼図書館と地元書店とのおはなし会等の協力 気仙沼図書館	7
地元書店を通じた郷土資料収集 山形市立図書館	8
「市民のための図書館」を目的とした、地元書店との双方向的な関係づくり 白河市立図書館 ...	9
子どもが選ぶ、友だちにすすめたい本 宇都宮市立中央図書館	10
見て！聴いて！デジタル絵本♪ 玉村町立図書館	11
加須市ブックリーフレット大賞 加須市立加須図書館	12
図書館と県民のつどい埼玉 埼玉県立熊谷図書館	13
みさと絵本サーキット 三郷市日本一の読書のまち推進課	14
移動図書館がつなぐ連携 我孫子市民図書館	15
古書店連盟との連携展示「としょかんのこしよてん」 千代田区立千代田図書館 ...	16
シティプロモーション課による足立関連本特設コーナーの取り組み 足立区立中央図書館 ...	17
書店での市立図書館書籍の受渡しサービス 町田市立中央図書館	18
書店・図書館・区役所による読書活動推進事業 横浜市中央図書館	19
独立系書店 南十字とのイベント連携 小田原市立中央図書館	20
栄区読書活動推進講演会「『横浜大戦争』の舞台裏」関連展示 横浜市栄図書館 ...	21
街なかで本にまつわる世界に触れる 富山市立図書館	22
出版社と図書館による共催シンポジウム 石川県立図書館	23
地域の読書環境を立場の垣根を越えて考え、支える 山梨県立図書館	24
書店と図書館司書とのコラボ 読書始めフェア 山梨県内図書館	25
甲斐・本の寺子屋 甲斐市立図書館	26
めざせ直木賞作家！ぼくのわたしのショートショート発表会 岐阜市立図書館 ...	27
図書館と書店が創出する本との出会い 清水町立図書館	28

テーマ			
①	②	③	④
◎			
○	◎		
	◎		
◎			
	◎		
◎			
	◎		
	◎		
○			◎
◎			
◎			
	◎		
◎			
	◎		
◎			
◎			
○			◎
◎			
◎			

		テーマ			
		①	②	③	④
地元書店に図書館司書おすすめ本コーナー常設	名古屋市守山図書館・志段味図書館..	29	◎		
岡崎図書館まつり協力	岡崎市立中央図書館	30	◎		
図書館と地元書店との地域連携	瀬戸市立図書館	31	○	◎	
公共図書館の資料を使って読書の楽しさを広めたい	豊田市中央図書館	32	◎		
公共図書館・書店・大学図書館でスタンプラリー	豊橋市中央図書館	33	◎		
図書館巡回展「わたしのまちの自費出版」	滋賀県内公共図書館	34	◎		
京都モダン建築祭で本に触れる	京都府立図書館	35	◎		
早見和真トークショー&サイン会	加古川市立加古川図書館	36	◎		
図書館で選書会の開催	大和郡山市立図書館	37	○	◎	
奈良県の図書館で本屋さんでスタンプラリー	三宅町 Mi i Mo 図書フロアほか	38	◎		
知・情報・交流・くつろぎの拠点としての図書館	和歌山市民図書館	39		◎	
書店や図書館、本の魅力を再発見!	鳥取県図書館協会	40	◎		
地元書店から資料の96%を購入	鳥取県立図書館	41		◎	
学校司書研修&ブックフェア	島根県立図書館	42	◎		
作家へあなたからの手紙をお届けします	三原市立図書館	43	◎		
まちの図書館応援隊	三次市立図書館	44	○		◎
講演会:『駆ける』を生んだ稲田幸久の頭の中	北広島町図書館	45	◎		
地元書店存続のために	小豆島町立図書館	46		◎	
図書館に書店が併設されていることの利点について	武雄市図書館	47		◎	
「本のまち 文化のまち あらお」を目指して	荒尾市立図書館	48	○	◎	
絵本作家黒川先生と恐竜の絵を描こう!	宇佐市民図書館	49	◎	○	
おすすめ本交換展示・スタンプラリー	鹿児島市立天文館図書館	50	◎		
図書館と書店で育てる読書リーダー	沖縄県立図書館	51	◎		

※◎：最もあてはるテーマ
○：あてはまるテーマ

地元出版社団体と図書館が共同で行ったデジタルコンテンツの創造 ～地元出版社等を母体とした団体との連携～

札幌市中央図書館(北海道札幌市)

URL: <https://www.city.sapporo.jp/toshokan/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

・地域発のデジタルコンテンツの普及をめざす団体の設立のきっかけづくり、活動への協力
・デジタルコンテンツを活用したサービスの提供

取組詳細

札幌、北海道の出版社が、一般社団法人北海道デジタル出版推進協会(HOPPA)を設立し、北海道の電子出版を推進する母体を形成している。当館では、以下の連携した取組を行っている。

■ HOPPA設立のきっかけ

平成23年度に札幌市中央図書館が行った電子図書館の実証実験に参加した出版社のうち11社が母体となり、地域発のデジタルコンテンツの普及をめざすHOPPAが設立された。図書館と連携した活動も行われており、セミナーなどを協力しあって開催し、地域の出版文化の振興に連携して取り組んでいる。

■ デジタル絵本の読み聞かせ動画の制作と配信

コロナ禍の休館の際に始めた取組で、デジタル絵本の画像データにパワーポイントで図書館職員が声を吹き込んで動画化したものを市役所の公式YouTubeチャンネルに公開している。
通常は出版社に許諾を取らなければならないが、HOPPAから人気の「おぼけのマール」シリーズを含む、札幌や北海道に関連した15作品の画像データが提供され、読み聞かせ動画を制作した。

■ 「北海道デジタル絵本コンテスト」への協力

令和3年度からHOPPAが地域発デジタルコンテンツの普及活動の一つとして開催しているデジタル絵本コンテストの受賞作品を札幌市電子図書館に所蔵している。また、作品の選考への協力や、受賞発表会で図書館職員が受賞作品を読み聞かせるなどの協力を行っている。



読み聞かせ動画の制作の様子



デジタル絵本コンテスト発表会

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 北海道札幌市中央区南22条西13丁目
人口 (図書館が所在する市町村) 196万人
職員数(うち有資格者数) 94人(39人)
蔵書数 約 87万冊
※人口以外のデータは中央図書館

取組の成果と今後

・HOPPAの設立は全国でも珍しい、地域の出版社が一丸となって取り組んだ先例となった。

・出版社にとっては、書籍の電子化により全国の図書館にも販路が広がった。

・札幌や北海道に関連した絵本の読み聞かせ動画の配信は、令和6年2月末現在で11,000回を超える再生回数となっており、子どもの読書活動の推進に貢献している。

・今後も、図書館とHOPPAが地域の出版文化の振興に連携して取り組んでいきたい。

1

市民と図書館で書店を支える！

～市民の熱意をバックアップする図書館～

市立留萌図書館(北海道留萌市)

URL: <https://iisod001.apse.jp/rumoi/wopc/pc/pages/TopPage.jsp>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

平成22年12月に市内唯一の書店が閉店したため、翌23年春から図書館利用者でもある市民グループが書店の誘致運動を開始した。精力的な活動と熱意が伝わり、同年夏「留萌ブックセンターby三省堂書店」が来店。以降、図書館と市民グループとの連携により、書店の各種企画、提案、開催に協力し、市民の読書活動を守り続けている。

取組詳細

■ 市民グループによる書店誘致と、図書館と連携した活動体制づくり

図書館は平成21年度から指定管理者としてNPO法人留萌スポーツ協会が運営している。図書館利用者でもあった本好きの主婦らが、市内に書店がなくなったことを憂慮し図書館に相談した際に、図書館長は「買ってもよし。借りてもよし。とにかく本を読む市民を増やしたい。」と独自支援を表明。そのことを受けた主婦らは「三省堂書店を留萌に呼び隊」を結成した。

書店誘致の活動は、メンバーズカード会員を募る取組が奏功し、人口30万人に1店という目安で出店している三省堂書店が2万人規模の留萌市に開店することとなった。書店開店後、同グループは「三省堂書店を応援し隊」と改名し、引き続き「応援し隊」と図書館が車の両輪となり、書店経営を安定させるための事業やPR活動に取り組んでいる。

書店誘致が実現してから13年たつが、市民グループの毎月の「作戦会議」は図書館会議室で行われ、館長はアドバイザー的存在として会議に参加し、書店に足を運ぶきっかけづくりの催しなど、現在も様々な企画を考え、実行している。

■ 図書館・書店・市民グループが連携した取組

図書館が書店から購入した本に保護目的の透明フィルムシートを貼る作業は、図書館司書の指導のもと「応援し隊」が図書館で行っている(=写真上=)。

また、子どもたちの読書の機会を促進しようと、書店、図書館どちらにも足を運んでもスタンプがもらえる「おたのしみカード」を作り(=写真下=)、押印10個で景品がもらえる企画も考案し、小学生に好評である。

そのほかにも、3年前の書店開店10周年に「応援し隊」が留萌の名所やおはなし会で読んだ絵本などを取り上げ手作りして話題を呼んだ「留萌おはなし絵本カルタ」の制作場所を図書館が提供したり、「応援し隊」が書店内で定期的に開催している「おはなし会」の周知ポスターの作成を手伝ったり、書店の周年行事開催時に図書館がイベント TENT を貸し出したりするなど、図書館・「応援し隊」・書店3者が可能な限り連携・サポートをし合い、市民の読書活動を支えている。



「応援し隊」によるフィルム貼り



書店と共通のスタンプカード

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 北海道留萌市住之江町2丁目1
人口 (図書館が所在する市町村) 1.9万人
職員数(うち有資格者数) 7人(3人)
蔵書数 約9.1万冊
※住所は本館データ

取組の成果と今後

・人口減少が続く中、書店経営は厳しさを増しているが、市民向けの様々な活動を通して書店の認知度が上がり、固定ファンも増えている。

・「おたのしみカード」は子どもたちに人気で、書店、図書館それぞれ、本を買わない、借りない子も訪れ「本のある空間」に親しむ環境が育まれている。

・図書館と「応援し隊」の連携支援は、店長や書店員の負担軽減にもつながっているため今後も活動を継続していきたい。

2

図書館・書店・福祉事業所が連携した「地方創生」

～「幕別モデル」ができるまで～

幕別町図書館(北海道幕別町)

URL: <https://mcl.makubetsu.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

2014年の図書館システム改修を契機に、それまで東京の業者を通じて行っていた図書の購入を、すべて地元書店から購入する様式に切りかえた。その際に生じた図書装備の問題を、書店が地元の福祉事業所をコーディネートしたことで、図書館と書店、福祉事業所が連携し、域内循環と障がい者の雇用を生み出す「幕別モデル」を確立させた。

取組詳細

- すべての図書を地元書店から
年間約4,000冊購入する図書は、東京の業者から購入していた際は装備した状態で納品されていた。地元書店からの直接購入に切りかえた直後、すぐには装備された図書を納品することができなかった。
加えて、図書は定価での購入、無償での装備であったため、地元書店の装備代の負担という新たな課題も生じた。
図書館での装備も検討されたが、4,000冊の装備は日常業務を圧迫するため、図書館と地元書店で改善のための協議を重ねた。
- 図書館・書店・福祉事業所が解決した図書の装備
図書館で障がい者の職業体験を受け入れていたことから、福祉事業所での装備作業を提案。書店のコーディネートにより、図書館が装備のレクチャーをし、福祉事業所による装備作業が実現した。
書店が図書館から発注された図書を福祉事業所に届け、福祉事業所の装備をチェックし、図書館に納品する域内循環、「幕別モデル」が確立された。
- 「幕別モデル」のいま
書店の装備代の負担解消と福祉事業所の社会貢献につながる仕事の継続のため、図書購入費とは別に装備代を予算化している。
当初、1つの事業所から開始した装備作業は2事業所となり、地元中学校の図書館においても、図書館と同じ蔵書管理システムを導入していることから、公共図書館と同様の納品がされる仕組みをつくった。



図書館でのレクチャーの様子



福祉事業所で使用している装備マニュアル(文面は加工)

基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	北海道幕別町新町122-7
人口	(図書館が所在する市町村) 2.6万人
職員数(うち有資格者数)	18人(11人)
蔵書数	約26万冊
※住所は本館データ	

取組の成果と今後

- 取組の成果
・書店においては、装備代を図書館が予算化したことで負担減が図られた。
・福祉事業所においては、図書の装備という社会貢献度の高い継続的な仕事が、通所者の雇用と生きがいにつながっている。
・書店、福祉事業所と連携することにより、双方が積極的に図書館づくりに関わるようになり、さらに関係性が深まった。
- 取組の今後
・三者の連携による「幕別モデル」を継続することで、地域の読書文化をより一層発展させる。

3

もりおか本屋さんサミット

～読書好きの、読書好きのための、もっと読書を好きになるトークショー～

盛岡市立図書館(岩手県盛岡市)

URL: <http://www.city.morioka.iwate.jp/kosodate/tosho/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

例年、1世帯あたりの書籍購入金額が全国屈指の盛岡市。市内に拠点を置く個性豊かな取り組みを行う4店舗、出版社勤務の経験を持つ地元アナウンサーとともに、読書の魅力と書店の将来についてを考え、市内の活字文化の更なる活性化を目指す。

取組詳細

- 背景
2023年のニューヨークタイムズ紙に、街の本屋さんが紹介されるほど、読書文化が生活に根付いている盛岡市。
市内には個性豊かな取り組みを行う書店が点在し、読書文化、映画文化、演劇文化、そしてそれらを語り合う場としての喫茶店文化が育まれ、街の文化的土壌を形成してきた。
各店の名物書店員さんを集め、本にまつわるトークショーを行うことで、市民の読書意欲と書店の利用頻度向上につなげること、リニューアルオープンを迎える図書館をPRすること、ひいては競合同士の書店員間交流を図ることを目的とし、令和5年度初開催。
- 開催日時 令和5年11月25日(土)
- 参加店舗 エムズエクスポ盛岡店、さわや書店本店
書肆みず盛り、東山堂イオンモール前湯盛岡店
- サミット議長 エフエム岩手 アナウンサー
- 内容
盛岡市立図書館リニューアルに伴うウェルカムムービー上映
図書館職員による絵本朗読
サミット第一部 ①各書店の自己紹介…特徴説明、店舗づくりの工夫等 ②書店員さんおすすめ本紹介
サミット第二部 クロストーク『盛岡と本屋の未来』…電子書籍の台頭、書店を取り巻く状況、図書館とまちの本屋は共栄できるか 等



基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	岩手県盛岡市高松1-9-45
人口	(図書館が所在する市町村) 28.4万人
職員数(うち有資格者数)	14人(6人)
蔵書数	約27万冊

取組の成果と今後

- ・事後アンケートでは「本屋さんの個性が感じられるトークショーで興味深かった」「民間の書店員さんと公共図書館のタイアップイベントは画期的だった」と概ね好評。継続開催を望む声が多く聞かれた。
- ・イベント後、店舗を超えた書店員おすすめ本紹介が各店舗で行われており、書店間交流においても一定の成果を上げた。
- ・今後は実行委員会を立ち上げイベントを開催することで、本の販売等、書店側の裁量でできることも増やせるものと考えられる。

4

図書普及向上に向けた連携

～地元書店の継続・育成のために～

塩竈市民図書館(宮城県塩竈市)

URL: <https://shiogama-se.net/facility/library>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

- ・地元書店団体からの優先購入を行うことで、地元の書店文化を継続、育成する。
- ・事業における物販等を担ってもらうことで、一体となった事業運営を行い、図書の販売促進につなげる。

取組詳細

■図書・雑誌の優先購入

市内の書店で構成する「塩竈市民図書館図書納入協会」(構成書店は現在1社のみ)より図書および雑誌を購入することで、市内の書店文化を継続、育成するもの。

■図書館事業への協力

「えほんデビュー」(ブックスタート)の絵本の購入や、文芸講演会における会場への出張販売等をとおして、図書館事業への協力と、図書の普及に向けた販売促進を行うもの。



文芸講演会 販売準備



文芸講演会 販売風景

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
宮城県塩竈市本町1番1号
人口
(図書館が所在する市町村)
5.2万人
職員数(うち有資格者数)
19人(13人)
蔵書数
約25万冊

取組の成果と今後

・文芸講演会は、ポスターや整理券の配布についても書店に協力をあおぎ、一定の宣伝効果があった。また会場での出張販売も、講演終了後には多くの購入者があり、その場で販売することで、販売促進に繋がっている。

今後も市内の書店文化を継続していくため、事業協力については行っていきたいと考えている。

5

図書館に泊まろう

～非日常的な読書の時間～

利府町図書館(宮城県利府町)

URL: <https://rifunosu.jp/library/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

- ・事業目的: 子どもの読書推進、図書館利用促進
- ・小学生を対象として、閉館後の図書館で、特別おはなし会や読書タイムを設けたお泊り会を実施。夜の図書館で本に親しむ経験や、仲間たちと交流する経験を提供。

取組詳細

開館(令和3年7月)から続いている人気イベントのひとつで、小学生15人が一晩図書館に泊まって、仲間たちと一緒に夜の図書館探検や、作家や書店経営者によるおはなし会を体験したり、図書館にある本を時間の制約無く自由に読むことができる読書タイムを楽しむという内容。

1回目(令和3年)は写真家の大竹英洋さん、2回目(令和4年)は絵本作家の荒井良二さん、3回目(令和5年)は子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主の増田喜昭さんを迎え、特別おはなし会や簡単なワークショップを実施。

一晩で300冊以上の本が手に取られており、非日常の空間で、自分の好きなもの(本)に囲まれて過ごすゆたかな時間を提供できたと考えている。

毎回多くの応募があるもののスペースの関係で抽選で15人の受け入れとなっているが、参加した子どもたちからは、「心ゆくまで好きな本を読めて楽しかった」「お友達もできた」「1泊だけでなく3泊したい」などの感想があり、小学生時代の良い思い出となっていると感じる。

ゲストには本事業に加え、同日開催の一般向けのフォーラムにも出演いただき、本や作品にまつわるお話をいただいている。



おはなしの部屋(ドーム内)の特別おはなし会の風景。



読書タイムでは、時間を気にすることなく、好きな本を好きだけ読むことができます。



靴を脱いで入るエリアに寝袋を用意して、15人の子どもが一晩過ごします。

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
宮城県利府町森郷字新
榎の木前31番地1
人口
(図書館が所在する市町村)
3.5万人
職員数(うち有資格者数)
17人(12人)
蔵書数
約10万冊

取組の成果と今後

左記の通り、普段の生活ではなかなか体験することができない、作家や書店主とのふれ合い、そして新しい仲間との交流が図られ、非日常的な環境の中で、図書館と本を楽しんでいただけた。また他の図書館利用者からも、「回数を増やして欲しい」「大人のお泊り会も実施して欲しい」などの意見をいただいている。

この取組以外にも、子どもを対象とした事業を各種展開しており、当館の利用者の中で一番貸出が多い年代層は、小学生となっている。

今後もこの企画は継続予定であり、子どもの図書館利用促進を進めるとともに、現在当館で課題となっているYA世代の図書館利用促進策も別途検討していく。

6

気仙沼図書館と地元書店とのおはなし会等の協力

気仙沼図書館(宮城県気仙沼市)

URL: <https://www.kesenuma.miyagi.jp/library/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

図書館と地元書店とのおはなし会等の協力

・年々おはなし会に参加する子どもが減少していることが課題であるため、おはなし会の開催について、広く図書館利用者や市民に知ってもらい、本についての興味・関心を高めるために実施している。
・講演会や絵本原画展などで作品の魅力を知ってもらい、すぐに本を手にとってもらえる環境を作る。

取組詳細

<図書館の地元書店開催おはなし会等への協力>

■宮脇書店気仙沼で月1回開催しているおはなし会のプログラム作成の協力を行っている。図書館のおはなし会で人気の絵本や紙芝居を図書館職員が書店に紹介している。

■図書館のおはなし会担当者や司書と宮脇書店気仙沼のおはなし会担当者が互いの行事の様子について情報交換をしている。また、開催情報についてポスターを掲示するなど協力しておはなし会のPRをしている。

<地元書店の図書館行事への協力>

■図書館主催行事の絵本原画展(毎年児童図書出版社である小峰書店に協力してもらい実施している。前社長(故人)が気仙沼市出身だったことが縁で郷土の子ども達のためと協力していただいている。)や講演会などの関連図書を、地元書店が店頭や図書館のカフェで販売している。販売期間は、行事開催前から行事終了後も一定期間販売している。読書週間の講演会ではサイン会を実施した。

絵本販売中!!

¥1,650 (税込み)

絵本原画展コラボメニューあります!詳しくは、cafe エスポワールのチラシをご覧ください。

コラボメニューを注文すると、「たけなび」のイラストをモチーフにしたクッキーがとつちらえます。

絵本はcafe エスポワールで販売しています。



絵本原画展 絵本販売ポスター



読書週間講演会 サイン会

取組の成果と今後

・宮脇書店気仙沼で開催しているおはなし会については、市民に周知されてきており、開催のたびに参加者が増えてきている。

・絵本原画展や講演会などで紹介された本の販売は来館者に好評である。

・今後は、スタンプラリー等のお楽しみ企画を開催するなど、図書館と書店がより一層連携し、それぞれのおはなし会に参加した子どもたちがさらに読書に親しめる機会を提供できるよう検討している。

7

地元書店を通じた郷土資料収集

~“書店”と“地元”が持つ情報を活かす~

山形市立図書館(山形県山形市)

URL: <https://lib.city.yamagata.yamagata.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

郷土資料は地元書店から優先的に購入するとともに、書店担当者から郷土の出版物について情報提供を受けることで、資料の充実を図っている。

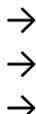
取組詳細

郷土資料収集にあたっては、基本的に地元書店に発注・購入している。

また、発注・納品の中で、書店担当者から新刊・既刊問わず郷土の出版物に関する情報の提供を受けることがあり、参考とすることで資料の充実を図っている。

<郷土資料の特徴や収集時の課題>

- 出版情報を得ることが難しい
- 発行部数が少ない
- 利用者の興味・関心が高い



<地元書店のもつ特長>

- 様々なルートから出版情報が入ってくる
- 在庫の確認・確保がしやすい
- 売れ行きなどの情報を持つ

<郷土資料を地元書店から優先購入するメリット>

郷土資料の購入先 = 地元書店 となっているため、次のようなメリットが期待できる。

- 地元書店 ①一定の売り上げが期待できる
②図書館が求めている情報を予測しやすい
- 図書館 ①“顔が見える”ため、相談等を行いやすい
②日常業務の延長で関係強化を図ることができる



地元書店から購入した郷土資料の例

<書店担当者とのコミュニケーションの重要性>

普段から図書館や地域の状況について話しあえる関係づくりが、より有益な情報の提供につながっている。

(例) 出版された郷土資料の発注がない → 書店担当者が「買い忘れてはいないか?」と確認

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所

山形県山形市小荷駄町7-12

人口

(図書館が所在する市町村) 24万人

職員数(うち有資格者数)

42人(12人)

蔵書数

約40万冊

取組の成果と今後

【取り組みの成果】

書店との関係を密にすることが、郷土資料の充実につながっている。

また、図書館のみならず広く地域の情報を持つ地元書店だからこそこの提案等が期待できる。

【今後】

特定の書店のみでなく、域内に存在する様々な書店と関係を強化していくことが、地域としての読書環境の整備・充実にとって重要である。

8

「市民のための図書館」を目的とした、地元書店との双方向的な関係づくり

白河市立図書館(福島県白河市)

URL: <https://library.city.shirakawa.fukushima.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

- ・図書館の蔵書で、手元におきたい本や手に入りづらい本を図書館経由で地元書店に注文
- ・地元書店との積極的な関係構築及び資料購入

取組詳細

■図書館の蔵書で、手元におきたい本や手に入りづらい本を図書館経由で地元書店に注文

利用者が手元におきたい本や手に入りづらい本は、図書館に備え付けの注文票に記入し、図書館経由で書店に渡す。書店は注文票をもとに本を手配し、納品後、直接利用者に連絡し、購入の手続きを行っている。利用者からは「手軽に本が買えて良かった」「図書館で思わぬ本を見つけて、書店に注文できて良かった」などの感想が寄せられている。

■地元書店との積極的な関係構築及び資料購入

開館して13年が経過した市立図書館〜りぶらん〜をはじめ、地域館(3館)、学校図書館(21館)で選書された資料(図書・雑誌)は一貫して地元書店及びそれらが加盟している書店組合から購入している。図書館では、市民のための図書館運営を目的として、週1回、司書による選書会議を行っている。その際、書店から需要度の高い図書や地域に関係の深い図書についての情報を得ることで、様々な分野の作品に目を配りながら選書を行うことができる。書店は、選ばれた資料について、迅速な納品と図書館の形式に合わせた装備(フィルムカバーなど)対応を行う。そうすることで、図書館は、時宜に即した展示や蔵書構成を実現することにつながっている。

当館の特色ある蔵書構成として、少子高齢化対策や移住定住の促進などの地域課題に関わる資料のほか、医学書、人文書などの専門書やコミックが充実していることがあげられる。多様な蔵書構成を生かし、利用者が書棚を見た時、意外な発見や出会いのある蔵書構成を心がけている。このような図書館の取組は、書店との日常的なコミュニケーションを心がけることで実現している。



注文票を館内に設置



館内(1階部分)

基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	福島県白河市 道場小路96-5
人口	(図書館が所在する市町村) 5.7万人
職員数(うち有資格者数)	34人(29人)
蔵書数	約40万冊
*職員数、蔵書数とも市内4館	

取組の成果と今後

資料の購入を地元書店から行うなど、積極的な関係構築を行っている。そうすることで、地元書店の振興になるだけでなく、図書館の蔵書の拡充や利用者の増加にもつながっている。

利用者は、図書館の豊富な蔵書を参考にして、欲しい本を書店に注文することができる。また、インターネットで注文することが困難な住民への支援にもつながっている。

今後も書店との連携についてPRに努め、地元書店の活性化にも寄与するとともに、読書環境の充実に努めていく。

9

こどもが選ぶ、友だちにすすめたい本

～うつのみやこども賞～

宇都宮市立中央図書館(栃木県宇都宮市)

URL: <https://www.lib-utsunomiya.jp/>

テーマ

その他(図書館の独自性ある子どもの読書推進事業の実施により、出版社、書店等がそれぞれの事業を展開している事例)

取組概要

本市では、子どもの読書活動推進の一環として、昭和59年から子どもによる児童文学作品評価を行い、受賞作品を決定し、子どもたち自身が作家を表彰する「うつのみやこども賞」事業を実施。当該事業を受け、出版社や書店等が受賞作品を活用し、各々の事業展開に繋げている。

取組詳細

■本市の事業「うつのみやこども賞」について

選定委員は毎月4タイトルの本を読み、月1回開催する選定会議で協議し、「月の本」を選定する。3月の選定会議において、その年度の「月の本」からもっとも友だちに薦めたい本として「うつのみやこども賞」を決定する。翌年度には表彰式と受賞作家による記念講演会を開催。作家を子どもが表彰する事業は、全国でもめずらしく、独自性のある取組である。

■うつのみやこども賞の活用

選定会議で選定した「月の本」は、「うつのみやこども賞だより」を発行し、市内の全小学校に配信して紹介するとともに、図書館ホームページへの掲載、各図書館等での配布により周知、また、図書館に「うつのみやこども賞コーナー」を常設している。

■出版社・書店等の展開

- ・受賞作品の出版社では、自社のホームページ等で歴史ある児童文学賞として「うつのみやこども賞」を紹介するとともに、受賞回数を明記するなどし、出版社として児童文学作家の創作意欲向上に向けた協力をしている。
- ・市内の書店では、受賞作品コーナーを設置して「うつのみやこども賞」を始めとする作品紹介をしている。
- ・受賞した作家は、自身の作品経歴に「うつのみやこども賞受賞」と記載している作家も多くなり、認知度も高まってきている。

■表彰式・受賞記念講演会

年度末に「うつのみやこども賞」を決定した翌年度に、選定委員をはじめ一般市民等も招き受賞作家による記念講演会を開催。また、受賞作家への質問タイムを設けるなど、選定委員・参加者に読書体験だけではわからない作家の作品への思いなどを知らせ、今後の読書意欲の喚起につなげている。



3月の選定会議の様子



第39回受賞記念講演会での表彰式

基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	栃木県宇都宮市 明保野町7-57
人口	(図書館が所在する市町村) 約51万人
職員数(うち有資格者数)	57人(16人)
蔵書数	約58万冊

取組の成果と今後

・本市児童の読書量推計が全国平均の2.5倍、図書館での児童書の貸出冊数でも中核市でトップクラスであることなどの成果は、この事業も寄与していると捉えている。

・40回目の「うつのみやこども賞」が決まり、令和6年度には40周年記念事業を開催予定。これまで築いてきた出版社や書店等との関りの集大成となるような内容で企画をしていく。また、うつのみやこども賞事業は今後も継続しながら、出版社、書店等と相乗効果が生み出せる事業展開を検討していく。

見て！聴いて！デジタル絵本♪

～バイオリンの音色にのせて～

玉村町立図書館(群馬県佐波郡玉村町) URL: https://www.town.tamamura.lg.jp/category/bunya/kyoiku_shogaigakushu_sports/library/

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

玉村町立図書館とイラストレーター、作家、電子絵本出版団体等が連携した事業。地元出身絵本制作者等が手がけたデジタル絵本を壁面に投影しながら、地域団体等の協力により朗読、手話通訳、演奏を行うことで、「誰もが親しみを持って気軽に参加できること」をコンセプトにしたイベントを多くの来場者が楽しんだ。

取組詳細

玉村町立図書館と公益財団法人玉村町文化振興財団(以下、「文化振興財団」という。)との共催事業として、電子絵本出版団体とイラストレーター・作家からの作品提供を受け、会場内壁面に映像を投影、群馬県立女子大学生が朗読し、朗読に合わせ、バイオリン演奏と手話サークルによる手話の実践を行った。

< デジタル絵本投影、読み聞かせ、手話実践、バイオリン演奏 >

- 開催日時: 令和6年2月18日(日) 11:00開演(約60分)
- 会場: 玉村町文化センター小ホール
※ 入場料無料、チケット事前配布60部、[環境整備]会場の出入りは自由、パイプ椅子エリア、車いす・ベビーカーエリア、マット敷座敷エリア、クッションやブランケット持ち込み可、カムダウン・クールダウンスペースあり等
- 企画・制作: 文化振興財団 ■ 主管: 玉村町生涯学習課 ■ 協力: 健康福祉課
- デジタル絵本提供者: 電子絵本出版団体 next coach イラスト・作家 藤井りん(玉村町出身)
- 上映作品: 「おばあちゃんのあんでくれた えりまき」(作 西本 鶏介、絵 藤井りん、編集 next coach) 他全6 作品
- 朗読: 群馬県立女子大学 奥西ゼミ
- 手話: 手話サークル 玉村シュワール
- 演奏: 松本 花菜(バイオリン)



写真左から、演奏、朗読、投影の様子



イベントチラシ 会場内の雰囲気

< イベントの広報、チラシ、周知等 >

- チラシ(文化振興財団が作成)を文化センター館内、図書館内、公共施設等で配布、SNSで情報発信、地元ラジオ局を通じイラストレーターと玉村町立図書館職員がイベント内容を事前に紹介する等して周知に努めた。

< その他連携イベント >

- 文化センターラウンジにて絵本提供者のイラスト画等を展示

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 群馬県佐波郡玉村町 大字福島325番地
人口 (群馬県佐波郡玉村町) 3万5千人
職員数(うち有資格者数) 20人(3人)
蔵書数 約20万冊・点
※ 視聴覚資料を含む

取組の成果と今後

○玉村町文化センター(大ホール、小ホール、生涯学習・公民館講座、歴史資料館、図書館等の複合型施設)は、R5年度に開設30周年を迎え、各種記念事業を行っている。

○左記イベントは、記念事業の一つであり、公益財団法人玉村町文化振興財団が企画・制作し、図書館(生涯学習課)と伴に初の試みとして、福祉関係者等の協力を得ながら、「誰もが気軽に参加できるイベントづくり」をコンセプトに開催した。

○チケット配布も早々に終了する等、関心度も高く、アンケートでは「のびのび過ごせ、音楽も良かった」等好意的意見も多くあり、今後も継続していく予定である。

11

加須市ブックリーフレット大賞

加須市立加須図書館(埼玉県加須市) URL: <https://www.library.kazo.saitama.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

加須市教育委員会学校教育課と図書館課が連携して、市内児童生徒が作成し、応募のあったブックリーフレットの中から特別賞と入賞作品を選考。受賞した作品は、市内4図書館と書店にて展示を行う。

取組詳細

- ブックリーフレットとは
児童生徒が自分の読んだお薦めの本について、イラストや文章中の好きな表現、紹介文等を用いてまとめたもの。
- 加須市ブックリーフレット大賞とは
自分の読んだお薦めの本を紹介したり、優れたブックリーフレットを見たりすることにより、児童生徒の思考力や表現力を高め、読書意欲の向上や読書に親しむ態度を育成することを目的として、加須市が平成26年度から実施している取組。



令和5年度教育長賞作品



令和5年度加須図書館長賞作品

図書館・書店での展示の様子



加須市立加須図書館



カサモ関口商店

市内展示場所

加須図書館
騎西図書館
北川辺図書館
童謡のふる里 おおとね図書館
カサモ関口商店
ブックセンターやまと
TSUTAYA加須店
TSUTAYA大利根店

学校教育課が、市内小中学校へ作品を募集し、図書館も選考に携わり、入賞作品候補の選考を行う。入賞作品の中から学校教育課が教育長賞、図書館が各図書館長賞を選出し、図書館・書店にて展示。(書店への展示依頼は学校教育課)

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 埼玉県加須市中央2-4-17
人口 (図書館が所在する市町村) 11万2千人
職員数(うち有資格者数) 26人(9人)
蔵書数 約26万冊
※データは加須市立加須図書館

取組の成果と今後

・令和5年度第9回加須市ブックリーフレット大賞
応募数 1,295点
(対象:市内小中学生)
展示期間
令和6年2月1日
～2月14日

・展示の様子を、市と図書館のホームページに公開し、周知を行うことで、書店・図書館に訪れるきっかけづくりになる。

・図書館の展示場所には、ブックリーフレット作品で紹介している図書を設置し、貸出も行っていることから、利用促進に努めている。

・今後も継続して実施する予定。

12

図書館と県民のつどい埼玉

～書店・出版社と連携した読書振興イベント～

埼玉県立熊谷図書館(埼玉県熊谷市)

URL: <https://www.lib.pref.saitama.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

「図書館と県民のつどい埼玉」は、読書振興等を目的とした県内最大級の図書館イベントである。図書館やボランティア等が連携して作り上げるイベントであるが、連携の輪を書店・出版社など本の送り手とも広げようと努めている。

取組詳細

「図書館と県民のつどい埼玉」について

- 2007年に始まり2023年までに17回開催
- 主催は、埼玉県図書館協会・埼玉県教育委員会・埼玉県学校図書館協議会等
- 県内の公共図書館・学校図書館・大学図書館・ボランティア等の協働により実施



記念講演の様子

2023年度開催のようす（書店等との連携部分をピックアップ）

2023年度から開催要項に「書店・出版社・新聞社など文字・活字文化を支える団体と図書館の連携を図る」ことを追記。書店等との連携について模索を始めた。

書店・出版社と連携した書籍販売・サイン会

丸善桶川店・文藝春秋と連携し、記念講演講師の中島京子さんのサイン会兼著作販売を会場で実施した。その他「中学生のピブリオバトル」で紹介した本の販売も行った。



サイン会に並ぶ来場者

埼玉県書店商業組合との連携

県内100店舗以上の書店が加盟する団体に後援いただき、イベントの広報物掲示等の協力をいただいた。

その他、YA出版会・ポプラ社等の展示を行った他、書店とも連携した取組である「埼玉県推奨図書」展示を実施した。

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
埼玉県熊谷市箱田5-6-1
人口
(図書館が所在する県)
733万人
職員数(うち有資格者数)
95人(76人)
蔵書数
約160万冊
※職員・蔵書数は県立図書館
(熊谷・久喜)全体

取組の成果と今後

・2023年の来場者数は延べ3,122人。書籍販売・サイン会は、計159冊の書籍を販売し、好評だった。書店から「今後も協力したい」との話があった。サイン会をお願いした作家さんと出版社にも読者と触れ合う機会を喜んでいただけた。
・来場者の声「サイン会は貴重でした。本が売れる良い機会でもあるので出版業界、図書館界のためにも今後も行っていたら良いと思います。」
・左記のような取組は以前から行っていたが、今回から要項に明記するなど、意識的に書店等との連携を実施した。
・今後も、書店にもメリットのある形でイベントに協力していただき、県内の読書振興につなげたい。

13

みさと絵本サーキット

～日本一「本とふれあえるまち」を目指して～

日本一の読書のまち推進課(埼玉県三郷市)

URL: <https://www.lib.misato.saitama.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

「日本一の読書のまち」を掲げる三郷市で読書活動の推進と図書館の利用促進を図るため、日本児童図書出版協会と連携し「絵本」にスポットをあてたイベントを開催。

取組詳細

三郷市では平成25年3月に「日本一の読書のまち」を宣言してから各種の読書推進事業を展開している。令和4年度からは書店、出版社、各種企業との連携と市民に読書の楽しさを実感してもらい、図書館の利用促進に繋げることを目的に「みさと絵本サーキット」を開催し多くの来場者から好評を得ている。講師の選定や書籍の販売等は「日本児童図書出版協会」に依頼することで、市ではできない様々なコンテンツの提供に寄与いただいている。

- 絵本作家を招いての講演会、ワークショップ
かさいまり氏、永井郁子氏、ゆーちみえこ氏、羽尻利門氏、間かせ屋。けいたろう氏を招き、講演会、ワークショップ、おはなし会を開催した。終了後は作家によるサイン会を開催した。

- 出版社によるブース出展及び絵本販売
当日会場には出版社によるブース出展、屋外での絵本の販売を行った。また、会場に絵本のキャラクターが登場し来場者との記念撮影スペースを設置したところ多くの人が来場し好評を博した。



絵本作家による講演会



サイン会の様子



屋外での絵本販売の様子



絵本のキャラクターや市のマスコットキャラクターとの記念撮影の様子



出版社によるブース(クラフトワーク)

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
埼玉県三郷市花和田648-1
人口
(図書館が所在する市町村)
14万2千人
職員数(うち有資格者数)
21人(12人)
※課全体
蔵書数
約47万冊
※市内3図書館及び4図書室計

取組の成果と今後

・令和4年度より開催し年々注目度が上がっており、市で主催する読書イベントの中で最も多くの来場者を集めるイベントに成長した。
・令和5年度は11月3日・4日開催し、2日間で1,095人の来場があった。
・絵本の購入と絵本の世界に触れる場の提供により、本を読む市民が多くなり、結果として図書館の利用者が増えていくことが期待されている。
・2年間の連続実施により、認知度と期待度が高まっているため、令和6年度も引き続き開催を予定している。

14

移動図書館がつなぐ連携

～市民のための相互利用推進～

我孫子市民図書館(千葉県我孫子市)

URL: <https://www.library.city.abiko.chiba.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

市内の商業施設「あびこショッピングプラザ」の駐車場を移動図書館のステーションとして使用したのに始まり、施設内の書店とイベントに合わせた展示や本の紹介を通じて、双方の利用促進を目指している。市と施設自体が包括連携協定を締結し、子育てイベントの開催等の取組を行っている。

取組詳細

市内の商業施設「あびこショッピングプラザ」とは、令和2年10月から移動図書館が「我孫子北ステーション」として駐車場を使用させてもらっていたが、もっと何か連携できるのではないかと担当者同士で話し合い、様々な取組を行っている。その中で、施設内の書店「ブックマルシェ 我孫子店」(株式会社ティーブックセラーズ)と連携した事例は以下のとおり。

<取組み事例>

■リクエストベスト10の貼り出し

図書館で予約多数のため、なかなか貸出にならない本についてランキングを図書館内同様に掲示。「待って読むか、買って読むか」を判断する材料にしようのが狙いで、双方の円滑な利用を促進している。

■施設主催イベントへの協力

毎年、【緑のカーテンコンテスト】開催時には、関連本の紹介を双方で行っている。ゴーヤの栽培・料理や園芸関連の本を紹介するブックリストも図書館が作成。【夏休みの宿題応援企画】開催時には、図書館おすすめの児童書を貸出し展示、ブックリストの配布を会場や書店内に設置して行った。

■図書館主催事業等への協力

施設内の市民プラザホールにて、図書館主催読書講演会を開催した際、講師の著作の特集コーナーを書店に設置、参加者がすぐに購入できるように紹介した。前年度も歴史関係の講演会であったので関連本の紹介コーナーを設置した。また、図書館以外の課の企画事業を同様にホールで開催した際も、書店に連絡し、著作や関連本のコーナーを設置、講演会に参加した出版社の関係者からも取組について評価された。



図書館予約ベスト10の掲示
毎月更新



主催読書講演会『白樺文学館とわたし』講師・作家 北村薫氏

取組の成果と今後

<成果や効果>

- ・図書館利用者から、書店での掲示を見て、「予約していたが早く読みたいのでやはりその場で書店で購入した」という話を聞いた。
- ・講演会終了後に多くの参加者が書店にも訪れていた。他課の講演会の際は専門的な出版社の本にも関わらず、講師の著作が複冊販売された。

<今後の課題・展開>

- ・現在、行っていることは継続して行っていく。また市の取組も、書店が連携できそうなことがあれば積極的に紹介していく。

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所: 東京都千代田区九段南1-2-1
千代田区役所9・10階
人口 (図書館が所在する市町村): 6万8,648人
職員数(うち有資格者数): 65人(42人)
蔵書数: 約20万冊

古書店連盟との連携展示「としょかんのこしょてん」

千代田区立千代田図書館(東京都千代田区)

URL: <https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

世界最大規模といわれる神田神保町古書店街の振興のため、神田古書店連盟と連携した展示を年に数回実施。毎回、テーマごとに古書店をセレクトし、店舗の特徴、注目すべき古書を紹介。これまで100回以上の展示を展開してきた。

取組詳細

【企画概要】

世界有数の古書店街である神田神保町の古書店連盟と千代田図書館が連携して、各古書店の自慢の資料を千代田図書館内で展示、紹介する。

【ターゲット・目的】

古書や古書店に興味があるが、敷居が高いと感じて、店内に入ったことのない来館者に古書店巡りの魅力を味わってもらう。
・多様なテーマで開催することにより、神保町古書店街の多様性や専門性を伝える
・千代田図書館の来館者に、古書店街、古書の魅力を伝える

【開催時期・開催場所】

・年数回(2007年より実施、2023年12月時点で112回開催)
・千代田図書館9階の地域連携コーナー

【直近の展示】

VOL.111「図書館と古書店で家康づくし」

会期: 2023年6月26日(月)～7月22日(土)
展示会の図録から児童書、古典籍まで、バラエティに富んだ「家康」にまつわる古書を魚山堂書店・新日本書籍・山吹書房にご協力いただき紹介。

VOL.112「古書店で味わう泉鏡花の魅力」

会期: 2023年11月27日(月)～12月23日(土)
生誕150年を迎えた泉鏡花の作品を、鏡花本を数多く取り扱う古書店・かわほり堂にご協力いただき紹介。



図書館と古書店で家康づくし



古書店で味わう泉鏡花の魅力

取組の成果と今後

- ・古書店および古書の紹介による古書店街の活性化
- ・同スペースでの関連蔵書の紹介による読書推進効果

神田古書店連盟との連携をさらに強化し、引き続き展示やイベントを実施。古書店街を巡る楽しさ、新刊書店では手に取ることのできない古書の魅力を訴求させ、出版文化の振興を図る。

シティプロモーション課による足立関連本特設コーナーの取り組み ～足立にまつわる本を集めました～

足立区立中央図書館(東京都足立区) URL: <https://www.city.adachi.tokyo.jp/bunka/library/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

区に対する理解を深め、区民が郷土愛や誇りを持つきっかけとするため、読書の秋を中心に区立図書館並びに区内の書店などに「著者が足立区出身・在住」「作品の舞台が足立区」などの書籍を集めた特設コーナーを設置している。

取組詳細

- ◆ 企画内容(主催はシティプロモーション課)
毎年10月の1カ月間、「著者が足立区出身・在住」「作品の舞台が足立区」などの書籍を集めた特設コーナーを区立図書館、区内書店等に設置する
- ◆ 実施場所(区内29か所)
【貸出】全区立図書館15館(改修工事に伴い1館休館中)
【販売】区内書店約20店舗中13店舗で実施
駅前の本屋まこと／くまざわ書店4店舗(イトーヨーカドー綾瀬店・エキア 北千住店・ボンテポルタ千住店・西新井店)／CROSSBOOKS2店舗(EQUIA北千住中央店・北千住南店)(北千住駅構内)／小泉書店／住吉書房五反野店／ブックスペースワン北綾瀬店／ブックファースト ルミネ北千住店／ぶっくらんど／文真堂書店 足立花畑店
【展示】千住街の駅、タリーズコーヒールミネ北千住店



千住街の駅



ブックファースト
ルミネ北千住店

展示書籍一覧

書籍名	著者	出版社	備考
アナログ	ビートたけし	集英社	著者が区出身
国華	—	朝日新聞出版	足立区文化財特集
地球と人にちよこつとやさしくなれる365日	滝沢秀一(監修)	K&Bパブリッシング	著者が区出身
コロネのおしりはどっち?	塚本ユージ	みらいパブリッシング	著者が区出身
オズマガジン2023年1月号「北千住名店案内」	—	スターツ出版	千住を特集
ようこそしまや出版癒し課へ	にごたろ	しまや出版	区内出版社

取組の成果と今後

協力書店からは「足立区」や「北千住」など地名が表紙に入った書籍などは売り上げが好調で、毎年協力したいと言っていただけいている。実施期間後も足立区関連本コーナーを自主的に継続している書店もある。今後も多くの方に区への関心を高め、理解を深めていただくため、取り組みを継続していきたい。

17

書店での市立図書館書籍の受渡しサービス

町田市立中央図書館(東京都町田市) URL: <https://www.library.city.machida.tokyo.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

インターネットで予約した市立図書館の書籍の受け取りや返却、リクエスト用紙からの予約ができるサービスを地元書店の久美堂本町田店で実施。同様のサービス拠点はほかに5ヶ所あるが、書店では初の施設である。

取組詳細

市立鶴川駅前図書館の指定管理者である久美堂・ヴィアックス共同事業体からの事業の提案を受け、2023年5月23日から久美堂本町田店において市立図書館書籍の受渡しサービスを開始した。駐車場が広くドライブスルー機能もあり、交通利便性も高い店舗での実施は、市民の読書環境を充実させる取り組みの一つとして好評を得ている。久美堂本町田店は6か所目の施設で、書店では初の試みである。

〈期待される効果〉

■図書館で期待される効果

- ・市民の読書環境、読書活動の充実
- ・ライフスタイルの変化やデジタル化などの社会状況の変化から、本離れが懸念される中、市内で図書館の書籍を借りることができる場所を増やすことで、市民が暮らしの中で本に触れる機会を増やし、読書につながる効果を期待している。



(久美堂本町田店外観・図書館返却ポストを設置)

■書店で期待される効果

- ・図書の販売
- ・文房具等の日用品の販売
- 市立図書館の本を受け取りに来ることをきっかけにして、関連する書籍や文房具などを購入することが期待できる。
- また、図書館で予約が多い書籍の特集など、店舗内に展示することで、読書意欲を高め書店利用者を増やす効果を期待している。



(店内の様子)

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
東京都町田市原町田3-2-9
人口
(図書館が所在する市町村)
43万人
職員数(うち有資格者数)
67人(40人)
蔵書数 約54万冊
※データは町田市立中央図書館

取組の成果と今後

サービス開始から9ヶ月経過し、2024年1月の貸出点数は8777点、同様のサービスを提供している全6施設の15%を占めている。利用は着実に伸びており、今後益々増えることが予想されている。書店では、6月以降、学習参考書や児童書などの売り上げが前年同月比1～2割増えた。

18

書店・図書館・区役所による読書活動推進事業

～読書をもっと楽しむためには？～

横浜市中心図書館(神奈川県横浜市)

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/library/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

横浜市では、「第二次横浜市民読書活動推進計画」に基づき、18の行政区が独自に読書活動推進目標を掲げ、区民・地域の読書活動支援を行っている。中央図書館は西区の図書館として、西区役所と協力し、講演会、絵本原画展などのイベントのほか、区内の読書関連施設や学校関係者との連絡会を開催し、読書活動推進に関する情報共有なども行っている。
令和5年度は、市内発祥の書店「有隣堂」の社員らを講師に招き、読書活動推進講演会及び関連展示を実施した他、講演会の様子を市公式YouTubeチャンネルで配信した。

取組詳細

連携先の株式会社有隣堂は、横浜の地で創業115年の老舗書店として市内を中心に43店舗を展開し、公式YouTubeチャンネル「有隣堂しか知らない世界」がチャンネル登録者数27.5万人と、幅広い世代から支持を集めている。中央図書館ホールで開催した講演会では、チャンネルにも登場する社員のほか、神奈川大学の学生がパネリストとなり、読書をもっと楽しむための本音のほか、YouTubeチャンネルの仕掛けやコンテンツに対する視聴者の反応、リアルで行ったイベントの盛り上がりについて、笑いを交えてトークセッションを行った。
また、中央図書館で開催した関連展示では、「海がみえる本」をテーマに書店員と図書館員がそれぞれ、おすすめの一冊をパネルで紹介し、来場者による人気投票の結果、僅差で有隣堂チームが勝利した。



▲ 講演会及び関連展示のチラシ(表・裏)



関連展示の様子▶



▲ 講演会の様子



基本データ

(数値は令和5年現在)

住所

神奈川県横浜市西区老松町1

人口

(図書館が所在する市町村)

377万人

職員数(うち有資格者数)

99人(68人)

※司書職員以外の有資格者は

※有資格者数に含まない

蔵書数

約176万冊(図書)

取組の成果と今後

講演会には有隣堂公式YouTubeチャンネルの熱心なファンを含め、幼児からシニア世代まで、幅広い層が参加した。終演後のアンケートでも、「読みたい本のジャンルが広がった」や「本屋に、図書館に、行きたくなる講演会だった」といった声が多く寄せられ、好評をいただいた。関連展示でも、書店員と図書館員が本を紹介し合うという初めての試みに、反響も大きく、335票の投票があった。書店員、図書館員、区役所職員が一緒に企画することで、市民の皆さまの読書活動を楽しく盛り上げる機会となった。

講演会の様子は
こちらから
ご覧ください。



HyoTKtptmEr f
YouTube公式チャンネル

19

独立系書店 南十字とのイベント連携

～「出会う図書館」で繋がる本と人の輪～

小田原市立中央図書館(神奈川県小田原市)

URL: <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/library/libra/kamome.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

図書館で開催する読書会、ブックトークを共催で実施。
図書館の一箱本棚にも南十字おすすめ本をポップとともに掲載。
図書館利用者と、書店利用者の層の融合、イベントの発展が達成。

取組詳細

小田原市立中央図書館は、令和5年度に独立系書店「南十字」と連携し、図書館で開催するイベントを行った。図書館の利用客の年齢層と異なる客層を持つ南十字との共催イベントを行うことにより、図書館に今までなかった若年層も含む、活力あふれるイベントを開催することが達成できた。
また、1回やって終わりのイベントで終わらせることなく、読書会を開催したことを企画本コーナーで並べることにより、参加者以外の利用者にも読書会での雰囲気や話題に触れてもらったり、読書会に参加してくれた参加者が別のイベントの開催者となり、図書館を盛り上げてもらった。

南十字とのイベント連携を通じて、「出会う図書館」を掲げる小田原市立中央図書館で本と人の輪が繋がったことを実感した。

■南十字

神奈川県小田原市にある書店「南十字」は、2022年10月、地元の高校出身の3人(鈴木美咲さん、剣持 貴志さん、成川勇也さん)で開業した「独立系書店」。個人出版や小さな出版社の作品を多く取り扱っており、本の点数はおよそ1500点に上る。

■読書会

令和5年度は「元気になる本」、「今年は読むぞ！積読している本」をテーマに2回開催。南十字の方には、コーディネーターとして進行を依頼。20代～60代まで幅広い年齢層の方が、本への愛情を熱く語り合った。

■一箱本棚

図書館の利用者が企画本コーナー一箱分のオーナーとなり、おすすめ本を展示する。南十字の3名のおすすめ本も4カ月展示していただき、大変好評であった。



基本データ

(数値は令和5年現在)

住所

神奈川県小田原市

南鴨宮1-5-30

人口

18.7万人

職員数(うち有資格者数)

15人(3人)

蔵書数

約28万冊

取組の成果と今後

南十字との共催イベントを通じて、「初めて図書館来た！これからも来たい」という若年層の声を多く聞いた。図書館はやはり、高齢者の利用客が多く、勉強を行う学生を除き、若年層の利用者が少ないことが課題である。

小田原市立中央図書館には集会室・研修室・創作室・視聴覚ホールと、さまざまな部屋があり、これらハードをうまく活用し、図書館に来たい、いつ来ても楽しい、と思える場にしていきたい。かけがえのない本に出会い、人の温もりに出会い、様々な情報に出会える小田原市立中央図書館としてより多くの利用客に愛される図書館となっていくよう趣向を凝らしていきたい。

20

栄区読書活動推進講演会「『横浜大戦争』の舞台裏」関連展示

横浜市栄図書館(神奈川県横浜市)

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/library/tshokan/sakae/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

栄区読書活動推進講演会「『横浜大戦争』の舞台裏」の開催に伴い出版社と協力した関連グッズ等の展示

取組詳細

令和4年度栄区読書活動推進講演会「『横浜大戦争』の舞台裏」(講師:蜂須賀敬明氏)の開催に伴い、『横浜大戦争』の関連グッズを出版社である株式会社文藝春秋から借用し、著作とともに展示した。

- 横浜市18区の土地神たちが争いを繰り広げる『横浜大戦争』の著者である蜂須賀敬明氏による、執筆の経緯や土地神たちがどのように生み出されたかなどをお話いただく講演会を開催した。(令和5年2月4日(土))
- 講演会の広報において土地神などのイラストの使用許可について、出版社に連絡したところ関連グッズの提供を提案いただいた。
- 株式会社文藝春秋から借用したグッズは、土地神スタンプ、オリジナルクリアファイル、『横浜大戦争 朱印編』(戸塚の巻、栄の巻、泉の巻)、土地神イラスト(イラストノはまのゆか)である(『横浜大戦争 朱印編』と土地神イラストはデータによる提供)。
- 図書館職員が私有する物(スタンプ台紙とオリジナルトレーディングカード)も許可を得て展示した。



展示全体



土地神スタンプ



『横浜大戦争 朱印編』と土地神イラスト

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
神奈川県横浜市栄区
公田町634-9
人口
(図書館が所在する市町村)
377万人(うち栄区12万人)
職員数(うち有資格者数)
11人(6人)
※司書職員以外の有資格者は
※有資格者数に含まない
蔵書数
約11万冊(図書)

取組の成果と今後

- 講演会の会場が図書館以外の場所(あーすぶらさ※)であったが、展示について案内したことにより、図書館に足を運んでもらうきっかけになった。
- 蜂須賀敬明氏の他の著作やおすすめ本も併せて展示したことで、紹介した本を読みたいと思うという意見が複数寄せられ、読書意欲の向上につながった。
- 出版社に連絡したことをきっかけに、グッズを借用しての魅力ある展示につながった。今後も同様の機会があれば、積極的に働きかけていきたい。

※神奈川県立地球市民かながわプラザ(愛称:あーすぶらさ)
住所:横浜市栄区小宮ケ谷1-2-1

21

街なかで本にまつわる世界に触れる

~富山市立図書館交流行事における出版業、書店との連携について~

富山市立図書館(富山県富山市)

URL: <http://www.library.toyama.toyama.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

富山市立図書館では、年間を通して、図書館ならではの多彩な交流行事を開催している。その中には、著者や編集者による講演会や、出版社の方を招いてのトークイベントがある。一冊の本の周辺には著者をはじめ、出版業、書店など様々な人が関わっているが、市民に気軽にその一端に触れてもらうための行事の企画、取組を紹介する。

取組詳細

富山市立図書館本館は中心市街地に位置し、人が集い、学び、憩える街なかの情報拠点を目指している。令和5年度は、一例として次のような交流行事を開催した。

- 著者による講演会、トークイベント
 - 宮田珠己さん講演会「本の迷路をずんずん歩く」
宮田珠己さん(エッセイスト)と、地元フリーアナウンサーによるトークイベント。宮田さんの好きな本を会場で紹介してもらった。サイン会も実施。
 - 黒田龍之助さん講演会「似ている外国語の学び方~ヨーロッパを中心に~」
黒田龍之助さん(言語学者)による講演会。幅広い年齢層が来場し、語学の習得方法について学んだ。サイン会も実施。
- 編集者による講演会
「子どもが初めてであうかがく絵本」
福音館書店月刊誌編集部部長(肩書は当時)の石倉知直さんによる講演会。科学絵本について、作り手の立場からお話いただいた。
- 出版社の経営者による講演会、トークイベント
 - 勝山敏一さん講演会「小さくて多様な真実」(※富山市立婦中図書館で実施)
地元出版社「桂書房」を営む勝山敏一さんによる講演会。富山の文学シーンをリアルタイムで見てきた勝山さんならではの逸話、エピソードをお話いただいた。
 - 矢部華恵のブックトークレディオ ゲスト:島田潤一郎さん
本や言葉にまつわるゲストを招き、リラックスしたムードで話を何ラジオのようなトークイベント。今回は、一人出版社の先駆けとして知られる「夏葉社」代表の島田潤一郎さんを招き、本を読む時間が与えてくれるものや、本の作り手として大切にしていることなどをお話いただいた。



宮田珠己さん講演会の様子



矢部華恵のブックトークレディオの様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
富山県富山市西町5-1
人口
(図書館が所在する市町村)
40.7万人
職員数※(うち有資格者数)
18人(13人)
蔵書数※約45万冊
(※データは、富山市立図書館本館のみ)

取組の成果と今後

どの行事についても盛況であり、市民に、本にまつわる世界の一端に気軽に触れてもらう機会になった。新型コロナウイルス感染症流行の終息に伴い、令和5年度は行事の定員を設けた事前申込制をなくし、当日参加型にした。講演会開催にあたっては、関連する資料を集めた図書展示や、登壇者への質問募集を行い、事前のPRに努めたものもある。また、行事当日に地元書店の協力によるサイン会を実施したのもあった。今後も、気軽に立ち寄れる街なかの図書館という特性を生かし、本にまつわる世界の魅力を紹介していきたい。

22

出版社と図書館による共催シンポジウム

～本の可能性と図書館の未来について～

石川県立図書館(石川県金沢市)

https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

図書館と出版社が、共催イベントを通して相互理解を深めるとともに、本の可能性や未来について考えるきっかけを、読者および図書館利用者に提供した。20～60代が参加、会場からの活発な質問もあり、本に関わる様々な立場による有意義な意見交換の場となった。本を取り巻く「知の連鎖」の中で、図書館にできることの一例となったと考える。

取組詳細

本を世に出す出版社と、本と読者の出会いの場をつくる図書館が、本の可能性と未来について、ともに考えるシンポジウム。

- 【イベントタイトル】本の可能性と未来のカタチ
- 【メインターゲット】出版業界・書店・図書館で働く方、働いてみたい方、本を書く方・読む方
- 【主催】書物復権の会(岩波書店・紀伊國屋書店・勁草書房・青土社・創元社・東京大学出版会・白水社・法政大学出版局・みすず書房・吉川弘文館) 石川県立図書館
- 【プログラム】令和5年10月7日(土)10:30～16:30
 - 第1部 基調講演『いろいろな場面、いろいろな読者、デジタルがもたらすもの』 田村俊作(石川県立図書館 館長)
 - 第2部 パネルディスカッション『企画展「十二文豪図書館二降臨ス～EPISODE with 文豪とアルケミスト～」を作るこれこそ司書の仕事』 上田敬太郎・原有樹・河合郁子(石川県立図書館 司書)
 - 第3部 パネルディスカッション『本をつくるひと、届けるひと―出版社の仕事』 橋元博樹・永沼浩一・鈴木クニエ・榎本周平(出版社)
 - 第4部 パネルディスカッション『本の可能性と未来のカタチ』 1-3部の登壇者にて

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/event2023/3551.html>

写真:【上】【中】「当日の様子」(石川県立図書館撮影)、【下】「新文化」2023/11/23



取組の成果と今後

【参加者】80名

【アンケート】44名回答

- 図書館の企画展の裏側や、本が届くまでの流れについて話を聞くことができ、図書館と本が好きなのとして充実した一日になった。(読者)
- 本には、著者の考えとともに編集者の方の想いも込められているのだから、本を手にとるときに私自身の感じ方もこれから変わっていくだろうと思った。(図書館員)
- 本の不況は出版社不況であること、考えさせられた。(読者)

【記事掲載】

出版業界紙「新文化」11/23【今後】

出版社・書店とともに、読者との交流や意見交換の場を引き続き設けていきたい。

23

地域の読書環境を立場の垣根を越えて考え、支える

～やまなし読書活動促進事業(やま読)の10年～

山梨県立図書館(山梨県甲府市)

URL: <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

やまなし読書活動促進事業(通称やま読)は、家族や友人、親しい人などに本を贈る習慣を広め、県民一人ひとりの読書への関心を高め、読書習慣を確立することにより、読書活動の推進を図ることを目的とした事業。山梨県教育庁生涯学習課が中心となり、地域の書店と図書館が連携して、官民一体で進める取組となっている。

取組詳細

平成24年度に山梨県立図書館が甲府駅北口に移転閉館するのにもない館長に就任した作家の阿刀田高氏(現名誉館長)が提唱した「親しい人に本を贈る習慣の定着を」という考えに基づき、平成26年度から実施している。大きな柱として県立図書館、書店、生涯学習課がそれぞれ中心となって取り組む3つの事業がある。

①贈りたい本大賞(県立図書館)

大切な人に贈りたい本について、その推薦文(その本を選んだ理由、贈りたい理由、書名、著者名等、150字以内)を募集し、大賞を決める。
※令和5年度は10回目となり3,875点の応募があった。

②やま読ラリー(県内書店)

「知の回遊」と称し、県内書店と図書館を利用して、スタンプを集めることで地域の伝統工芸品である甲州印伝で制作した「オリジナルしおり」をプレゼント。

③やま読ブックフェア(生涯学習課)

秋の読書週間に合わせて開催。フェア期間中は県内の図書館や書店が統一したテーマで本の魅力を発信する。(令和5年度テーマ「全国に誇るやまなし自慢」)

※その他にも、県立図書館では
・県内公共図書館司書が薦める「図書館司書が選ぶこんな時、この一冊。」
・館長企画講演会(書店がその場で販売する書籍を用いてサイン会)などを、やま読事業として位置づけて一体的に周知することで、県民の事業に対する理解促進に努めている。

■実行委員会

事業と合わせて、特徴として挙げたいのが「実行委員会」の存在である。社会教育課(現在の生涯学習課)、県立図書館、書店で構成する実行委員会を立ち上げ、その後も出版社や出版取次、県内市町村の図書館関係者や大学関係者など、多様なメンバーが参画し、事業の方向性などについて協議・検討を進めている。事業の改善を図るとともに、図書館と書店が相互理解を深めるなど、委員会が県内読書活動促進のための原動力となっている。令和4年度には県内の大学図書館サークルがやま読サポーターとなり活動に参加するなど、新たな連携の形も生まれている。



贈りたい本大賞表彰式



やま読実行委員会の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 山梨県甲府市北口 2-8-1

人口 (図書館が所在する市町村) 18.5万人

職員数(うち有資格者数) 47人(32人)

蔵書数 約71.1万冊

取組の成果と今後

○平成26年度の事業開始から今年度で10年目を迎える。継続した取り組みにより、全国図書館大会での2度の事例発表(平成30年度、令和3年度)や令和元年度に第13回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞するなど、一定の評価を得ている。

○一方で県内では書店の閉店や図書館の閉館もあり、図書館も書店も存在しない自治体は今後益々増えていくことが予想される。事業に県民全体を巻き込んでいくため、読書・本に関わるあらゆるステークホルダーがやま読に参加できるよう取り組みを広げる必要がある。
○活動が広まることで、本のある場所や、本に触れる機会を増やし、本を贈り合うという習慣の定着につけていきたい。

24

書店と図書館司書とのコラボ 読書始めフェア

～書店が減少していく中、図書館を活用して読書体験の継続を～

山梨県内の11市町村立図書館

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

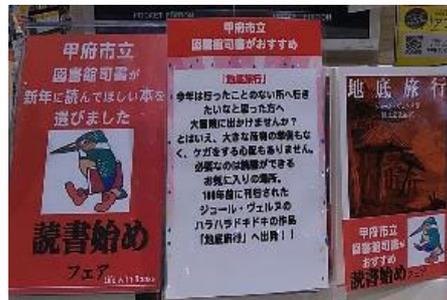
取組概要

山梨県内の11市町村立図書館の司書が選書した文庫を、未来屋書店(イオンモール甲府昭和店)でフェアとして展開し、フェアにて各図書館の魅力を発信。県民へ図書館の活用を促す取組。

取組詳細



未来屋書店甲府昭和店でのフェアの様子



各図書館のキャラクターを使用したPOPと帯司書の推薦コメントを添えて展開



「勝沼図書館」でのフェアの様子POPなどは同じものを使用

山梨県内の書店が閉店により減少していき、書店が無い市町村も増える中、未来屋書店甲府昭和店では、「このままでは山梨県の読書文化が廃れてしまう!」との危機感から、「書店が減少するなら、せめて地元の図書館を活用して読書体験を継続してほしい」との思いから、県内の市町村立図書館に声をかけ、11館が参加してのフェアを実施した。

〈フェアの概要〉

企画名:「山梨県の図書館司書が選ぶ ～文書で新年を～ 2024年読書始めフェア」

内容:「本のプロである図書館司書が選書した文庫」を読んで、新年を迎えて頂く企画

各図書館で3～5冊選書し、推薦コメントをつけて展開。その際、図書館のPRになるよう、図書館の「ロゴ」や「キャラクター」を入れたポップや帯、リーフレットを作成。さらに、図書館イベントのポスターやチラシも設置。

同期間に11館中9館が図書館にて同フェアを展開。結果、相互展開となり双方で盛り上がる結果に。

基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	
人口 (図書館が所在する市町村)	万人
職員数(うち有資格者数)	人(人)
蔵書数	約 万冊

取組の成果と今後

今回のフェアを通じて書店は利用するが図書館を利用しない読者層に対し、改めて図書館の魅力にも意識を向け、相乗効果があったと考えられる。図書館利用者からは「紹介文があると分かりやすくていい」と好意的な意見が多く、コメントがあることで普段埋もれてしまっている本の貸出につながったとの事。(書店でも同様の現象あり)展開した図書館では概ね数日で、6～8割が貸出状態となり「貸出中ですぐ読めない為、書店(地元)で買った」等図書館利用者が書店へ足を運びきかけ作りとなった様子も見受けられた。今後も図書館、他の書店と連携を結び「山梨の読書文化を盛り上げていく」活動を継続していく。

甲斐・本の寺子屋

～本に関わる人々の交流によって、本の可能性を考える～

甲斐市立図書館(山梨県甲斐市)

URL: <https://kai.library2.city.kai.yamanashi.jp>

テーマ

その他(図書館と市民が連携して行う事業)

取組概要

2017年3月に、甲斐市立竜王図書館で「本の未来について考えたい」と題し、「信州しおじり本の寺子屋」の発起人の一人である長田洋一氏(河出書房新社「雑誌」元編集長)と江宮隆之氏(作家)による講演会を開催した。

このことをきっかけに、読者・出版者・作家・書店・編集者など、本を中心とした様々な立場の方が交流し、本の可能性を考える事業として「甲斐・本の寺子屋」が2018年にスタートした。

取組詳細

地域の人々と情報を共有しながら、地域の特性を考え、図書館が地域の中で、本に関わる人々の交流の場となるような事業を目指して「甲斐・本の寺子屋」は開始した。この活動では作家である江宮隆之氏をアドバイザーに迎え、「甲斐・本の寺子屋を支える会」として活動する市民ボランティアの発案を基に、事業の企画を行っている。また、講演会当日も「甲斐・本の寺子屋を支える会」が受付等の運営を支えている。

講演会とともに関連展示を行っており、そこでも「甲斐・本の寺子屋を支える会」の方にご協力いただいている。

<令和5年度開催の講演会>

■「Jリーグ30周年。経営危機から天皇杯まで、ヴァンフォーレ甲府の軌跡を語る」
講師:海野一幸氏(ヴァンフォーレ甲府 元社長・会長)・江宮隆之氏(作家)

■「落語家がなぜたくさん本を書くのか」
講師:立川談慶氏(落語家)

■「南方熊楠と牧野富太郎」
講師:志村真幸氏(南方熊楠顕彰会理事)

■「読むことと書くこと」
講師:中島京子氏(作家)



「甲斐・本の寺子屋を支える会」活動の様子



展示の様子

基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	山梨県甲斐市篠原 2610-12
人口 (図書館が所在する市町村)	約7.6千人
職員数(うち有資格者数)	21人(20人)
蔵書数(R5年4月1日現在)	約 59万冊

※住所は甲斐市立竜王図書館のもの
※職員数・蔵書数は甲斐市内3館を合計した数字

取組の成果と今後

・講演会、関連展示、本の展示を同時に行うことで、それぞれの内容の理解がより深まっていることがアンケート結果より伺えた。

・「本を中心とした、様々な立場の方の交流の場」を目指し、「甲斐・本の寺子屋を支える会」の皆さまとともに、広い視点を持ちながら、事業を計画していきたい。

めがせ直木賞作家！ぼくのわたしのショートショート発表会

岐阜市立図書館(岐阜県岐阜市) URL: <https://g-mediacosmos.jp/lib/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

YA(ヤングアダルト: 中学、高校生)世代を中心に幅広い人気のある直木賞作家を招き、将来作家を目指すYA世代の子どもたちによる自作短編小説の発表会を行う。子どもたちは人気作家からの言葉を励みとし、将来の夢実現のための礎とする。

取組詳細

■事業の目的

市民(特にYA世代)の小説を書くことへの関心や、読書意欲、図書館への関心を喚起し、自己表現の場を提供する。また、将来岐阜市のYA世代から直木賞や芥川賞、ノーベル文学賞等の受賞者を生み出す契機とするとともに、図書館のさらなる利用促進を図る。

■事業の概要

- ①YA世代の子どもたちから原稿用紙5枚(2,000文字)程度の短編小説を募集する
- ②このうち数点を選抜し、YA世代の子どもたちに発表してもらう
- ③発表された作品を通じ、発表者と作家との交流を図る
- ④来場者と作家との質疑応答など

■事業の対象者

YA世代(中学、高校生)

■令和5年度実績

応募総数148作品の中から朝井リョウ氏(岐阜県出身の直木賞作家)が8作品を選抜き発表会を行った。作品は市内だけではなく、市外、県外からも多数応募があり、選ばれた作品も半数以上が県外からの応募であった。発表会は会場とオンラインの両方で開催し、発表者が一人ずつ作品を朗読した後、朝井氏から感想やアドバイスを受けた。多様な分野の作品が集まり、朝井氏のトークとともに観覧者を楽しませた。全応募作品を掲載した作品集を製作し、岐阜市立図書館の蔵書とすると共に、岐阜市立中央図書館総合カウンターにて無料配布を行い、郵送にも対応した。



発表会の様子



交流会の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
岐阜県岐阜市司町40-5
人口
(図書館が所在する市町村)
40万人
職員数(うち有資格者数)
105人(95人)
蔵書数
約89万冊

取組の成果と今後

市外、県外からの応募が増えており、開催毎に本イベントが全国の中高生に浸透し、多くの中高生にとって物語を創作するきっかけになっていることが窺える。観覧者からも中高生の作品に感動する声が聞かれ、イベントへの満足度も高い。過去の選考者から作家デビューした人も生まれている。今後も岐阜市立図書館の目玉事業として継続していく。

図書館と書店が創出する本との出会い

～清水町書店連携事業～

清水町立図書館(静岡県駿東郡清水町) URL: <https://shimizutown-library.shizuoka.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

「本」をキーワードに図書館と書店の強みを生かし、双方に訪れる地域住民が思いがけない発見や出会いと交流によって啓発され、地域の読書活動が促進されることを目的とする連携事業を行う。

取組詳細

日本三大清流の一つである「柿田川」が流れる清水町は、東西2.7キロメートル、南北4.54キロメートルの面積8.81平方キロメートルであるにも関わらず、4つの書店が存在する。図書館がリニューアルオープンをした令和2年に、株式会社マルサン書店、有限会社長倉書店、株式会社ゴトー(TSUTAYA BOOK STORE)、株式会社東海TSUTAYAと協定を締結した。

イベントや業務連携に関することを始め、情報交換の推進や情報発信に関すること、人材の育成に関すること、環境・教育・生涯学習の推進に関すること、その他必要と認められる事項について連携し協力することで、地域の読書活動を促進する。

＜ 取組事例 ＞

■ 書店売上ランキングの掲示

毎月、書店から売上データを提供してもらい、売上ランキングのポスターを作成、図書館内に掲示する。所蔵がない本は積極的に購入して利用者に提供する。

■ 書店のおすすめ本展示

読書週間や季節に沿った書店のおすすめ本を図書館に展示する。書店によって傾向の異なった本が紹介される。手に取ったことが無いジャンルの本でも「書店がおすすめする本」という信頼性の高さが、「利用者」と「本」との出会いを促進する。

■ ブックフェアの開催

書店を通して出版社に協力を仰ぎ、約2,300冊の本を図書館に展示する。実際に本を手に取り、図書館へのリクエストを選定することができる。選定された本は、図書館司書が精査した上で購入して利用者に提供する。「本」との出会いの場を設けることで、町民の読書活動を促進する。

■ その他

地域の絵本作家のイベントや講演会などの、情報交換や協力を仰いで、絵本作家と地域住民が交流する場をつくる。



上: 参加者が熱心に本を選定している様子(ブックフェア)
左: 「新たにはじまる 本と出会う」をテーマに4月のおすすめ本を展示した(書店のおすすめ本展示)

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
静岡県清水町堂庭63-1
人口
(図書館が所在する市町村)
3万人
職員数(うち有資格者数)
11人(5人)
蔵書数
約 9.3万冊

取組の成果と今後

通常図書館では司書が選書した資料を利用者に提示する形をとるが、書店の売上ランキングは地域におけるリアルタイムのニーズを利用者に提示できる良い取り組みであると感じる。

また、書店との連携は図書館外の情報を取り込み、図書館資料の多様性を補う効果もあると感じている。

今後、図書館から書店へ発信する取り組みにも着手するなど、双方に情報発信を行い、地域住民の読書活動を推進していくため、地域書店との連携を一層深めていきたい。

地元書店に図書館司書おすすめ本コーナー常設

～図書館で書店員おすすめ本の展示や、独立系書店の紹介イベントも～

名古屋市守山図書館・志段味図書館(愛知県名古屋市)

URL: <https://www.library.city.nagoya.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

区内二つの図書館が地元書店と連携して司書のおすすめ本コーナー、書店員のおすすめ本の紹介やトークイベントを実施。

取組詳細

○目的

名古屋市守山図書館と同区内の志段味図書館では地元二書店との相互展示や、チェーン書店や大型書店ではなく、町の書店として地域に根差した本屋さんの店主のトークイベントを実施し、その魅力を図書館を利用する本好き、書店好きの人に紹介し、書店の利用や購入を促す

○具体的な取り組み

地元の二書店(三洋堂書店志段味店・草叢BOOKS新守山店)と連携して、司書おすすめの本を司書手描きPOPと一緒に展示。また書店員おすすめ本を図書館で展示している。また「本が結ぶ人と地域 きょうは一本屋三味」と題したイベントを開催(2023年9月)。当日は「架空書店美鶴堂」(本のイベントの企画開催や出店に取り組み3人の若者)、「私設図書館もん」(シェア型書店と子どもたちの居場所作り)に取り組み若者)、「ウィー東城店」(広島県東城町のユニークな書店)のみなさんのトークイベントを実施。トークイベント会場ではそれぞれの書店のおすすめ本の販売や展示も行う。普段図書館を利用している人や、書店好きの人たちが集まった。書店開業をめざしている参加者もあり、ビジネス支援の可能性も見えた。



三洋堂書店志段味店



草叢BOOKS新守山店



イベント案内ちらし



草叢BOOKS新守山店
書店員のおすすめ本

基本データ

(数値は令和5年現在)

守山図書館
住所 愛知県名古屋市守山区守山一丁目6番1号
志段味図書館
住所 愛知県名古屋市守山区深沢1丁目101番地
人口 233万人
職員数(うち有資格者数)
守山図書館 19人(16人)
志段味図書館 16人(15人)
蔵書数
守山図書館 約9万冊
志段味図書館 約7万冊

取組の成果と今後

図書館利用が難しい地区の市民に司書のおすすめ本を書店を通じてお知らせすることができた。トークイベントでは図書館利用者だけでなく、書店好きの参加者も多く参加され、図書館のファン作りにも効果があると感じられた。このイベントのあと、地元のチェーン書店との協働で、書店員と司書がそれぞれの「今年の推し本」を紹介し、展示、販売するイベントも実施した。また別のチェーン書店と書店業界の展望についての講演会を開催するなど、幅広いテーマで本を取り巻く話題の提供を続けている。

29

岡崎図書館まつり協力

～作家講演会・ワークショップの開催～

岡崎市立中央図書館(愛知県岡崎市)

URL: <https://www.library.okazaki.aichi.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

地域書店(正文館書店)と連携し、図書館まつりなど図書館の催事として作家講演会やワークショップを開催することで図書館来館のきっかけを作り、読書活動の推進や地域活性化に寄与する。

取組詳細

岡崎図書館まつりは、毎年夏休み時期に図書館で活動する市民ボランティア団体とともに、企画・開催している取組で、読み聞かせや手づくり絵本のワークショップ、図書館クイズラリーなど様々な催事を行っている。2017年に図書館単独ではなかなか企画することが難しい作家さんを招いた催事を、正文館書店の協力を得て開催。以降、コロナ禍での中断はあったが、作家講演会等を書店と図書館で役割分担しながら連携して毎年取り組んでいる。

< 書店と図書館の役割分担 >

■ 講師への依頼・調整

日頃の業務による繋がりを活かし、書店が、図書館と出版社あるいは作家さんとの間に立ち、開催日時や内容についての調整、作家さん来場の対応などを担う。また、催事当日は来場者のニーズに応え、会場で講師著書の販売を行う。

■ 会場の手配及び催事の広報

催事開催にあたり、図書館が会場を用意催事の広報事務を担う。

< 過去の取組み実績 >

- ・広野多珂子さん講演会(2017年)
- ・北川チハルさん絵本ライブ(台風により中止/2018年)
- ・北川チハルさん絵本ライブ(2019年)
- ・コロナ禍で中止(2020年・2021年)
- ・いらいとしおさん絵本ライブ&ワークショップ(2022年)
- ・きむらゆういちさん講演会(2023年)
- ・たかばたけじゅんさん親子ワークショップ(2023年)



たかばたけじゅんさん
親子ワークショップ チラシ

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 愛知県岡崎市康生通西4-71
人口 (図書館が所在する市町村) 約 38万人
職員数(うち有資格者数) 41人(22人)
蔵書数 約 77万冊

取組の成果と今後

・作家さんを講師とした催事は、市民の関心度も高く、図書館まつりの中核として広く催事を周知させる効果があり、多くのかたが図書館に来館するきっかけになっている。
・作家さんと直接触れ合える貴重な機会となっており、毎回好評を得ている。
・正文館書店の「活字文化の発展」という強い思いに支えられている催事であるが、思いを一にする図書館と連携することで、とくに「子どもの読書活動の推進」にも関わる取組みとして、子どもの読書離れ改善につなげたい。

30

図書館と地元書店との地域連携

瀬戸市立図書館(愛知県瀬戸市)

URL: <http://www.lib.seto.aichi.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

図書館の本を地元書店から購入し、本の装備を福祉施設(就労事業所)へ依頼
商店街イベントに読み聞かせボランティア等の紹介、派遣

取組詳細

活字離れで書店が激変し、社会問題になっているが、地域の読書文化を支えていくには図書館のみならず街の書店が必要である。街全体の読書文化を盛り上げていくため書店と図書館が連携して読書活動を進める活動を行っている。

- 東京の業者が装備した本を地元の瀬戸市立図書館用図書納入組合(以下、書店納入組合という)を通して購入していたものを直接、地元の書店納入組合から購入することとした。
装備は市内福祉施設(就労事業所)と書店が連携して行う「幕別モデル」の導入



・作業を分担し、それぞれができることを行っています。

- 商店街のイベントに、瀬戸市立図書館と友好関係のあるイラストレーターを紹介し、ワークショップを開催したり、読み聞かせのイベントに図書館のボランティアを派遣したりしている。

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
愛知県瀬戸市東松山町1-2
人口 12.7万人
(図書館が所在する市町村)
職員数(うち有資格者数)
6人(4人)
(委託スタッフ35人(25人))
蔵書数 約 34万冊

取組の成果と今後

【成果】東京の業者からの直接納入は、電算システムとも連動して、本の発注から受け入れまで一貫通貫のシステムであったため、人員不足を補うことが出来たが、司書の選書能力やレファレンスに必要な教養・知識・技術を身に付ける機会を奪っていた。地元の書店納入組合から本を一冊一冊確認して発注、受け入れをすることにより、司書としてのスキルアップも出来、魅力ある蔵書構成にも繋がった。

また、書店納入組合との連携により情報交換が密となり、地元書店と図書館双方の活性化を図ることが出来、書店の存続にも貢献できている。

【今後】地元書店がますます活気づき、図書館とともに地域の読書文化を発展させていき、さらには、幕別モデルのように障害者雇用の拡大、税金の域内循環など新たな地域型の経済効果を生み出す政策を確立したい。

31

公共図書館の資料を使って読書の楽しさを広めたい

～目的に応じて図書館と書店を使い分け、豊かな読書生活を～

豊田市中央図書館(愛知県豊田市)

URL: <https://www.library.toyota.aichi.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

- ・中央図書館の豊かな蔵書を活用した取組を書店で実施することで、読書の楽しさが感じられる場を増やす。
- ・書店のイベントに協力して人の流れを生み、町のにぎわいに貢献

取組詳細

令和5年度から、豊田市中央図書館では最寄りの書店「丸善雄松堂」の未来ラボステーションYYと協同した読書活動の推進を実施。公共図書館と書店が協力し合うよさを実感している。

中央図書館団体貸出を利用した書店での読み聞かせ活動

書店で週2回開催されているおはなし会(読み聞かせ)に中央図書館の本を利用。読み聞かせをする本の選択肢が広がり、子どもだけでなく親・祖父母世代からも好評。「もっと読んで」「懐かしい!」「何度見ても面白い」などの声が聞かれるようになった。書店にはない大型絵本や紙芝居も人気がある。売り物の本を読み聞かせすることが難しい書店の困り感を、中央図書館の豊富な蔵書を活用することで解消し、子ども読書活動の推進に繋がった。



【中央図書館の絵本を使った書店の読み聞かせの様子】

書店主催の駅前活性化イベントに中央図書館もなぞときポイントとして協力

相互の来館・来客に繋がることを願って、令和5年11月に丸善雄松堂主催の「なぞときラリーinとよた2023」に中央図書館も協力。イベント中は、書店から駅前周辺施設や図書館に来館する流れができ、町のにぎわい創出に貢献。相互イベントのよさを実感。

書店内で中央図書館の資料を活用した生涯学習出前講座を豊田市教育委員会が実施

令和5年度8月に「どうぶつクイズに挑戦しよう～本からみつけよう～」を実施。ひらがなの読める4歳～小学校2年生までの10組21人の親子が参加して、図鑑



【書店イベントスペースで図書館資料を使った講座の様子】

を使ってクイズを解きながら、目次・索引・見出しの使い方を学んだ。参加者からは大変好評で、「図鑑って楽しい」「図書館に行きたい」などの声があり、講座後書店で図鑑を購入した親子もいた。図書館の本をまず読んでみて「じっくり読みたい」「何度も読みたい」本は購入するという、目的に応じた利用者の活用が見られた。



【中央図書館に設置した書店のなぞとき】

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
愛知県豊田市西町1-200
人口 約42万人
(図書館が所在する市町村)
職員数(うち有資格者数)
90人(63人)
蔵書数 約105万冊

取組の成果と今後

【成果】未来ラボステーションYYの読み聞かせのための令和5年度団体貸出実績(2月まで)は、76冊。

図書館と書店が資料や人を交えて連携することで、それぞれの利用者が行き来する流れができた。

【課題】

図書館や書店を利用する人はもちろん、普段利用しない人にも、読書の楽しさや有用感を感じられる機会を提供するにはどうしたらよいか大きな課題。中央図書館の豊かな蔵書を多様な場所で活用しやすくしたり、他の書店との連携を検討したりするなど、多様な層に読書の楽しさを伝えられるサービスや企画を考えたい。

32

公共図書館・書店・大学図書館でスタンプラリー

～本があるところにお出かけしよう！～

豊橋市中央図書館(愛知県豊橋市)

URL: <https://www.library.toyohashi.aichi.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

- ・市内の本に関連する施設を巡ってスタンプを集めるイベント。子どもが、本や本と出会う場所に親しむことが目的。
- ・スタンプラリー対象施設は、市立図書館4か所と公共施設の図書室1か所のほか、地域の書店2か所と幼児教育学科がある大学の図書館1か所。

取組詳細

令和4年度の「子ども読書の日」に合わせて開催したイベント。子どもが本のある施設に出かけたくなるようスタンプラリーを実施し、より多くの本と出会うきっかけ、また、本と出会う場所に親しむきっかけを作った。

■開催期間: 令和4年3月26日(土)～4月24日(日) ■イベント名: 図書館こどもフェスタ わくわくスタンプラリー

■スタンプラリー対象施設は公共・民間合わせて8か所!

公共施設はもちろん、民間の書店や大学図書館と協力し、対象施設を設定。

- ①豊橋市中央図書館
- ②豊橋市向山図書館
- ③豊橋市大清水図書館
- ④豊橋市まちなか図書館
- ⑤豊橋市こども未来館図書室
- ⑥精文館書店 豊橋本店
- ⑦豊川堂 本店
- ⑧豊橋創造大学附属図書館



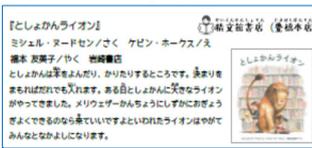
子どもが入りやすいように、目立つ場所にスタンプ台を設置した書店



子どもが入りやすいように、外に看板を設置した大学図書館

■チラシ(兼スタンプ台紙)には対象施設の「おすすめの本」も掲載!

学校を通して市内小学生と年長児全員に配布したチラシには、スタンプラリー対象施設のスタッフが選んだおすすめの本を、表紙画像や紹介文を載せて案内し、読書への興味が高まるようにした。



基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 愛知県豊橋市
羽根井町48番地
人口 (図書館が所在する市町村)
37万人
職員数(うち有資格者数)
中央:33人(16人)
図書館全体:63人(31人)
蔵書数 中央:約70万冊
図書館全体:約111万冊

取組の成果と今後

市内には本と出会う場所がたくさんあるということ、子どもたちに伝えることができた。また、各施設の担当者同士が交流を持ち、情報交換などを行うことができた。

スタンプラリーの延べ参加者数は574人で、そのうち8か所すべてをまわったのは71人だった。図書館4館だけでスタンプラリーを行った令和3年度の参加者数(697人)と比べると少なく、子どもにとっても、保護者にとっても難易度が高かったことが分かる。令和5年度はスタンプラリーではないイベントを行い、令和6年度は図書館4館だけのクイズラリーを行う予定だが、また機会があれば書店等と連携したイベントを行いたい。

図書館巡回展「わたしのまちの自費出版」

～「日本自費出版文化賞」と地元ゆかりの自費出版物を中心に～

滋賀県内公共図書館12館

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

地元出版社と連携し、普段は利用者の目に触れにくい自費出版物の展示を行った。県内図書館を巡回する企画展として、令和5年度(2023年度)末までに12の図書館で実施予定。地域にゆかりある作品を展示するなど、実施館ごとに特色ある内容で実施された。

取組詳細

地元出版社・サンライズ出版(滋賀県彦根市)協力のもと、自費出版物の展示会(主催・NPO法人日本自費出版ネットワーク(JSN))を、2023年1月から県内図書館を巡回する形で実施している。出版社の図書展示に加え、会場図書館による連携展示など、地域色豊かな取り組みを行った。

■サンライズ出版(JSN加盟社)による図書展示
「第25回日本自費出版文化賞(*)」受賞作品ほか、開催館の所在する地域にゆかりのある自費出版物が展示された。

*日本自費出版文化賞
人々の目に触れにくい自費出版物に光をあて、著者の功績をたたえ、自費出版の評価・活性化を促進することを目的とする。
主催:一般社団法人日本グラフィックサービス工業会
主管:NPO法人日本自費出版ネットワーク

■実施館一覧(県内12図書館)※実施館により展示名が異なる場合あり。

- 守山市立図書館:2023年1月5日～2月2日
- 長浜市立長浜図書館:3月2日～3月29日
- 長浜市立高月図書館:4月1日～4月30日
- 米原市近江はにわ館:7月6日～7月30日
- 東近江市立能登川図書館:9月6日～9月29日
- 滋賀県立図書館:9月13日～9月18日
- 東近江市立湖東図書館:10月6日～10月26日
- 東近江市立永源寺図書館:11月2日～11月30日
- 豊郷町立図書館:12月2日～12月24日
- 甲良町立図書館:2024年1月11日～1月31日
- 愛荘町立秦荘図書館:2月5日～2月28日
- 彦根市立図書館:3月5日～3月31日



豊郷町立図書館での実施の様子
図書館の資料は貸出も可能



愛荘町立秦荘図書館での実施の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
人口 (図書館が所在する市町村)
万人
職員数(うち有資格者数)
人(人)
蔵書数 約 万冊

取組の成果と今後

・地域の自費出版物について、利用者とともに目を向ける良い機会となった。

・自館蔵書だけでなく、出版社の図書展示をベースとすることで、「自費出版」という切り口でまとまった冊数を展示できた。

・出版社担当者からは、「図書館での展示に立ち会うことで、普段、お聞きする機会の少ない読者の「生の声」を聞くことができた」とお話をいただいた。

京都モダン建築祭で本に触れる～図書館と書店で同時ブックフェア～

京都府立図書館 URL: <https://www.library.pref.kyoto.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

京都の様々なモダン建築を見て歩く「京都モダン建築祭」。イベントをより楽しんでもらうために、図書館と書店が建築本フェアを同時開催。

取組詳細

京都モダン建築祭とは？

京都はもちろん全国からの参加申込者が、京都の多くのモダン建築を11月に散策して体感する、新しい京都の風物詩(令和4年から毎年開催、京都市等後援、文化庁補助)。京都府立図書館も通常非公開部を公開。

なぜ「京都府立図書館×丸善京都本店」？

時代を問わず建築様式や建築にまつわるあれこれが、見る人の知的興味をかきたてる。建築本を読みたくなる時である。そこで、「京都府立図書館×丸善京都本店 京都モダン建築祭セレクトフェア」を双方で同時開催し、互いのフェアを紹介。ともに明治時代に設立され、近代建築が広がる時代を生きてきた歴史背景もあり、京都モダン建築祭に協調。

ブックフェアのコンテンツは？

本を売る立場の書店と重複を避け、京都府立図書館は電子書籍の建築本、建築DVD、建築関連雑誌をリスト化。また、京都モダン建築祭実行委員会が編集したブックリストの本(新刊本ではない)を展示。丸善では京都府立図書館のリストを配布。

京都府立図書館でのフェア



丸善京都本店でのフェア
(写真中央に府立図書館のリスト)

取組の成果と今後

丸善京都本店から、フェアの本の売れ行きが伸びたとの連絡あり。図書館のリストを持ち帰る客も多かった模様。

京都府立図書館も京都モダン建築祭期間中、普段の来館者とは異なる層が通常非公開部を見学を訪れ(令和4年は約1400人、令和5年は約1000人)、認知度が向上。

今後も図書館と書店それぞれの特色を打ち出しながら、まちのイベントと協働したい。

35

早見和真トークショー＆サイン会

～かなしきデブ猫ちゃん「兵庫編」刊行記念～

加古川市立加古川図書館(兵庫県加古川市) URL: <https://www.lics-saas.nexs-service.jp/kakogawa/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

商業施設の同フロアに所在する図書館と書店が連携し、フロアのみならずビル全体の活性化を目標に掲げ、読書離れが進むなかイベントを通して、様々な利用者層に図書館・書店の双方への興味関心を持ってもらう。

取組詳細

地元紙で連載されている創作童話「かなしきデブ猫ちゃん マルのはじまりの鐘」が絵本として出版されることになり、刊行記念イベントを実施した。著者の早見和真氏のトークショー＆サイン会と、ギターを生演奏(一部)に合わせた絵本の読み聞かせを行った。新聞社提供の映像を投影しそれに合わせて図書館スタッフが読み聞かせを行った。

■新聞社から提供された映像を投影し、図書館スタッフが読み聞かせを行った。ある場面で新聞社スタッフのギターを生演奏もあった。

■トークショーは書店スタッフが司会を務めた。「作中で加古川を通過しお叱りの手紙をもらった」「取材で何度か加古川を訪れたがいつも曇っている」など、笑いを誘う場面もあった。

■サイン会には主人公マルも登場し、会終了後には握手会、撮影会も行われた。



読み聞かせ



トークショー



サイン会



本の展示



グッズ販売

取組の成果と今後

イベント後、書店の週間ランキング1位になるなど、大変反響の多いイベントとなった。通路を挟んだ同じフロアに図書館と書店があり、加古川市図書館の予約ランキングを店頭で展示いただいたりと、これ以外にも連携イベントを多数実施している。図書館、書店双方の行き来を促し、フロアのみならずビル全体の活性化に繋げたい。

36

図書館で選書会の開催

大和郡山市立図書館(奈良県大和郡山市)

URL: <https://www.city.yamatokoriyama.lg.jp/soshiki/toshokan/shisetsu/1/3086.html>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

毎年、奈良県書店商業組合の協力により、新刊本を展示。学校の先生やボランティアなどが参加し、学校や地域での新刊本の充実を図っている。

取組詳細

◆開催内容

十社の会(あかね書房、岩崎書店、偕成社、ポプラ社など、子どもの本の専門出版社が共同で学校や図書館に本を紹介する会)、NCLの会(講談社、評論社、農文協など、児童書に限らない出版社による学校図書館巡回グループ)、クリーンブックグループ(公文、あすなろ、教育画劇ほか)、CBL(ひさかたチャイルド、クレヨンハウス、絵本館ほか)による合同選書会を毎年実施。

◆対象

県内小・中学校図書館担当者、学校司書、ボランティアなど

◆特色

- ・各社のおすすめ本、新刊を実際に手に取ることができる。
- ・当日会場で発注も可能。
- ・会場で選んだ本のリストを渡し、検討後、書店へ発注することも可能。



令和5年6月29日の開催風景

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 奈良県大和郡山市
北郡山町211-3

人口
(図書館が所在する市町村)
8.3万人

職員数(うち有資格者数)
29人(22人)

蔵書数
約27万冊

取組の成果と今後

毎年、図書館で学校図書館部会が開催されるのに合わせて「選書会」を実施。市内小・中学校の先生やボランティアだけでなく、県内外の小・中学校の先生、ボランティアも参加。新刊本に直接触れることができる絶好の機会であり、学校の図書の実況に資するため、今後も継続して開催する予定。

37

奈良県の図書館で本屋さんでスタンプラリー

三宅町MiiMo図書フロア(奈良県三宅町)ほか全16自治体の図書館

<https://www.lib-eye.net/town.miyake.lib/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

読書離れ、書店の減少が進む中、
まちの図書館・室と、まちの書店とのコラボ企画

取組詳細

2020年から毎年年末・年始にかけて「奈良県の図書館で本屋さんでスタンプラリー(奈良県書店商業組合主催)」が開催されている。今年度は県と市町村あわせて16自治体の図書館が参加。

●参加図書館

奈良県立図書情報館、生駒市図書館・室、大和郡山市立図書館、香芝市民図書館、葛城市立當麻図書館、葛城市立新庄図書館、王寺町立図書館、広陵町立図書館、平群町立図書館、河合町立図書館、三宅町MiiMo図書フロア、橿原市立図書館、桜井市立図書館、大和高田市立図書館、御所市立図書館、五條市立図書館、川上村立図書館

●スタンプラリーのルール

応募用紙が参加図書館と書店で配布され、図書館・室の利用時または書店での購入500円毎に1個スタンプがもらえる。期間内にスタンプを4つ集めて応募すると、抽選で100名に500~5,000円分の図書カードが当たる。応募方法は、4個目のスタンプを押された書店、または図書館で投票箱に入れるか手渡し。投票締め切り日を過ぎた応募用紙は無効。
※最低1つは書店のスタンプが必要で、スタンプの集め方により高額賞品の抽選対象になる仕組みになっている。
※参加の図書館・書店マップも製作されている。

●賞品と抽選内容

- A 図書カード5,000円分×5名様(異なる4種のスタンプ)
- B 図書カード2,000円分×10名様(異なる3種のスタンプ)
- C 図書カード1,000円分×25名様(異なる2種のスタンプ)
- D 図書カード 500円分×60名様(4つとも同一店舗でスタンプ)



スタンプラリーのチラシの表(左)と裏(右)

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所 奈良県三宅町伴堂689

人口
(図書館が所在する市町村)
0.7万人

職員数(うち有資格者数)
6人(0人)

蔵書数
約 7000冊

取組の成果と今後

このスタンプラリーのように図書館と書店が連携し、本を通じた地域イベントやキャンペーンなどの企画、実施が増えると、読書好きな方はもちろん、そうでない方々にも図書館や書店の利用、何より本そのものに親しんでいただける機会も増え、地域の活性化の一助として寄与することが期待できる。

38

知・情報・交流・くつろぎの拠点としての図書館

～滞在型の図書館を目指して～

和歌山市民図書館(和歌山県和歌山市)

URL: <https://wakayama.civic-library.jp/>

テーマ

環境整備

取組概要

和歌山市民図書館 新図書館基本構想で定められた市民図書館の基本理念「図書館がつながる『本と人』『人と人』『人とまち』」と、その基本理念を達成するための図書館の役割である、「知・情報・交流・くつろぎの拠点」を具体化するため、指定管理者の自主事業として、図書館の1階にカフェ・書店等を併設し、図書館事業との調和とまちの賑わいを作り出す。

取組詳細

令和2年6月5日に移転グランドオープンした和歌山市民図書館は、指定管理者が運営しており、指定管理者の自主事業である、カフェ・書店等を併設し図書館への来館者の増加に取組んでいる。

<指定管理者の自主事業による来館者の増加>

■図書館とカフェ・書店の併設

図書館の1階に雑誌をメインとした書店を併設している。購入した本だけではなく、購入前の本も1階の座席で閲覧することが可能である。

また、1階にはカフェも併設しており、蓋付きの飲み物であれば、持ち込んで図書館や書店の本を読むことも可能である。このような取組で利用者が本に触れる機会を増やし、市民が図書館へ来館するきっかけを提供している。

■書店エリアでの物品販売

まちの賑わいの拠点施設として、来館される方への地域の魅力発信を目的に、地域の産業や文化を伝える地域物産コーナーを常設し、地域事業者とのネットワークを築いている。地域事業者と連携した物品販売を行うことで、図書資料の貸出だけではない利用を目的とした来館者の増加にもつながっている。図書館へ訪れる方に、いつ行っても何か新しい情報、知らなかったことに出会える機会を提供することができ、地域事業者と来館者のつながりを生みだしている。



和歌山市民図書館1階カフェ・書店エリア



和歌山市民図書館1階物品販売エリア

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所: 和歌山県和歌山市
屏風丁17番地

人口
(図書館が所在する市町村)
34.9万人

職員数(うち有資格者数)
65人(22人)

蔵書数 約51万冊

取組の成果と今後

来館者数

平成30年度(移転前): 約17万人
令和4年度(移転後): 約79万人

カフェで飲み物を購入し図書館を利用する学生が多く、これまで利用が少なかった10代の利用増加につながっている。

和歌山の上品質をコンセプトに、和歌山で作られた特産品などを幅広く取り揃え、和歌山の魅力に出会えるきっかけとなっている。

39

書店や図書館、本の魅力を再発見!

鳥取県図書館協会(鳥取県鳥取市)

URL: <http://www.library.pref.tottori.jp/la/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

「本、書店、図書館にまつわるエピソード大賞」の実施

取組詳細

鳥取県図書館協会(事務局:鳥取県立図書館)は、鳥取県立図書館をはじめとする公共・大学・学校・公民館を中心に組織された団体。個人会員として書店関係者のほか、団体会員として鳥取県書店商業組合が入会している。また、鳥取県書店商業組合理事長には協会役員としてご助言いただき、県内の読書推進に向けた取組を進めている。

平成29(2017)年度から鳥取県書店商業組合との共催で「本、書店、図書館にまつわるエピソード大賞」を実施。審査は、書店関係者、図書館関係者、学校関係者により行い、本・書店・図書館(公共・学校)で実際に起こったエピソードを募集・公表することにより、読書推進、図書館や書店の振興につながることを目指している。

<募集するエピソード>

- ・心温まる話
- ・うれしかったこと・役に立ったこと
- ・新しい気づきや発見
- ・出会った人・本
- ・その他、書店や図書館、本に関する“ちょっといい話” など

<賞・副賞>

- ・大賞(図書カード1万円) 1名以内
- ・優秀賞(図書カード3千円) 2名以内
- ・部門賞(書店、図書館、小中学生、本)(図書カード各2千円) 各2名以内

<応募方法>

チラシ裏面の応募用紙またはマス目付原稿用紙(応募票を添付)に400字程度(350字~400字)で記入し、県内のポスターの貼ってある書店、県立図書館、市町村立図書館の窓口へ応募。



令和4年度募集チラシ

令和4年度表彰式



基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
鳥取県鳥取市尚徳町101

人口
(図書館が所在する市町村)
54万人

職員数(うち有資格者数)
49人(31人)

蔵書数
約127万冊

取組の成果と今後

応募数は年々上昇し、多彩なエピソードが寄せられている。

表彰式を開催し、報道機関等へプレスリリースを行い、幅広い層へ周知できるよう努めている。

また、協会の会員向けの広報誌のほか、ホームページや地元紙にもエピソード全文を掲載し、多くの方に読んでもらえる機会をつくっている。

今後もエピソードを通じて、書店や図書館、本の魅力の再発見につなげていきたい。

40

地元書店から資料の96%※を購入

～地域の文字・活字文化を下支え～

鳥取県立図書館(鳥取県鳥取市) URL: <https://www.library.pref.tottori.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

地元書店からの購入を原則とする鳥取方式の堅持

取組詳細

※特殊な専門書や外国語図書、直販雑誌など(4%)を除き、書店で購入できる資料(図書、雑誌、CD、DVD)は、地元書店から購入している。

■ 図書館で購入する図書・雑誌などは原則地元書店から購入している。

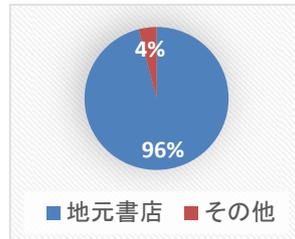
- ・地元書店とは、鳥取県書店商業組合加盟の書店
- ・令和4年度は全体の約96%

・電子書籍についても、地元書店を通じて契約して使用している。(全国で他に例がないと思われる)

・地域の出版社が作成した電子書籍の購入も行う予定としている。

・購入図書の約半数は、書店が持ち込む見計らいで購入。図書館員は現物を確認しながら選書を行っている。

・県立図書館が地元書店から資料を購入し、経営の下支えすることで地域の書店の存続に寄与している。



地元書店からの購入割合(令和4年度)



見計らい選書の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
鳥取県鳥取市尚徳町101
人口
(図書館が所在する市町村)
54万人
職員数(うち有資格者数)
49人(31人)
蔵書数
約 127万冊

取組の成果と今後

・図書館は書店からの見計らいで選書し、利用者に対して内容を確認した資料を提供することができている。

・見図い選書により、大量の新刊から図書館の資料を取捨選択する技量を高めている。

・規模の小さな地域の書店にとっては、県立図書館からまとまった量の発注があることで、経営の下支えとなるとともに販売実績を上げ、新刊図書の配本数を増やすことができている。

・地元書店の存続により、県民の読書・情報環境が維持できている。

41

学校司書研修 & ブックフェア

～わくわく学校図書館ブックフェアの開催～

鳥根県立図書館(鳥根県) <https://www.library.pref.shimane.lg.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

鳥根県立図書館が実施する学校司書研修にあわせて、書店主催による「わくわく学校図書館ブックフェア」を実施することで、学校司書が直接本を手にとって選書できる機会を提供する。

取組詳細

<取組の経緯>

■ 学校司書研修を実施する中で、学校司書に選書の重要性を体感してもらおう機会がほしいと考えていた。そうした中、平成25年度から今井書店が主体となって、山陰各所で「わくわく学校図書館フェア」を実施していたことから、学校司書研修の日程に合わせてブックフェアを開催してもらうこととし、平成31年度から共同実施することになった。

<特徴>

- 研修会場の近辺にブックフェア用の会場を確保することで、学校司書が研修の合間にも来場できるようにしている。
- 書店側では、来場者の意見を取り入れて翌年の展示に反映させるなど、学校司書の生の声を得ることができる機会となっている。
- 県立図書館が毎年発行している推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」に掲載している新しく入った本をピックアップし、特設コーナーを設けて紹介している。



ブックフェア会場



選書中の参加者



県立図書館発行の推薦図書リストに掲載されている本の展示

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
鳥根県松江市内中原町
52番地
人口 約64.8万人
職員数(うち有資格者数)
35人(28人)
蔵書数
約90万冊

取組の成果と今後

・店頭でなかなか手にすることの少ない調べ学習向けの児童書の中身を直接見ることができ、購入の際の選書に役立つことから、学校司書に大変好評。

・書店側は、研修の日程に合わせることで一定の参加者数が見込め、後日、図書の販売につながる可能性がある。(図書館、書店側双方にメリットがある取組だが、学校司書研修の見直しに伴い、共同での実施は令和5年度で一旦終了)

42

作家へあなたからの手紙をお届けします

三原市立図書館(広島県三原市) URL: <http://www.mihara-city-library.jp>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

三原市立図書館(中央・本郷・久井・大和)内に、作家への想いを直接伝えるために手紙を投函する専用ポストを設置し、書店、出版社経由で作家まで届ける。同時に参加作家の本の展示も行う。この企画を通して、利用者に作家と図書館をより身近に感じてもらい、本に対する興味や関心を深め、読書推進につなげる。

取組詳細

- 書店(株)啓文社との連携
 - ・広島県出身の参加作家を選出
 - ・書店を通し(株)実業之日本社、(株)筑摩書房に依頼し、図書館で回収した手紙を作家に届ける
 - ・書店から出版社(作家)にプレゼントの依頼
- 選出作家 児童文学作家 林原玉枝、ミステリー作家 東川篤哉、純文学作家 今村夏子の3名
- 応募受付期間 令和4年11月2日(水)～12月26日(月)
- 手紙数 林原玉枝22通、東川篤哉13通、今村夏子16通 合計51通
- 手紙の応募者の中から抽選で数名にプレゼントを渡す



展示の様子



プレゼント贈呈の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
広島県三原市城町1-3-1
人口
(図書館が所在する市町村)
8.8万人
職員数(うち有資格者数)
26人(19人)
蔵書数
約24.5万冊

取組の成果と今後

- 成果
 - ・書店と出版社(作家)との繋がりを活用して実施できた事例である。
 - ・手紙を作家に届けることで利用者に作家を身近に感じてもらった。
 - ・3作家の著書を表示することで、利用者には本や作家への興味を持ってもらうことができ、図書館資料の貸出増加に繋がった。
- 今後
 - ・書店と出版社(作家)とのパイプを活かして継続して実施していきたい。

43

まちの図書館応援隊

～地元の編集事務所や企業に支えられる広報紙「発見!としょかん」～

三次市立図書館(広島県三次市) URL: <https://toshu.city.miyoshi.hiroshima.jp/>

テーマ

その他(図書館と地元編集事務所の連携)

取組概要

広報紙の作成を地元編集事務所と協働で行い、地元企業の広告を「まちの図書館応援隊」として広報紙に掲載することで図書館と企業がともに応援しあえる関係を進めて地域の活性化に貢献していく。

取組詳細

三次市立図書館は三次市が100%出資の株式会社「暮らしサポートみよし」が指定管理制度で運営している図書館である。会社の経営理念の一つに「新しい公共サービスのあり方を追求する」とあり民間と関わりながらより良い図書館にしたいという思いで、これまでも地元商工会議所の開催する「まちゼミ」へ参加してきた。

■「発見!としょかん」の発行と課題

三次市内には市町村合併後8館の図書館ができ、それぞれの館で広報紙を発行している。主に来館者を対象とした配布しかできていないため、市民に広く情報が行き届き、8館が一つの館とアピールできるよう平成28年5月より全戸配布の広報紙「発見!としょかん」を年4回、発行することにした。制作はすべて図書館で行い、印刷と配布を印刷会社に依頼した。広告を集めて費用の一部とするため、営業も職員が行ったが毎回苦戦していた。作成に関しても専用のソフトがなく紙面のクオリティを上げることが難しくなっていた。

■編集事務所「Lupine(ルパイン)」との連携による課題解決と相乗効果

三次市で子育て世代を対象とした雑誌「cappemam(カッペマ)」を発行する編集事務所「Lupine(ルパイン)」の榎原祐美さんが図書館協議委員となり「発見!としょかん」の手伝いの申し入れがあった。令和5年より次の役割分担で紙面を一新した。

・図書館の担当-内容・原稿・校正

・編集事務所の担当-表紙等の写真撮影・編集・広告の営業・作成・印刷発注・配布場所への配達

広告収入は編集事務所とすることで図書館は費用負担がない発行が実現した。

初回号から「まちの図書館応援隊」として18社の広告が集まった。その中から一店

「本でつながるまちのお店を紹介」とピックアップしてオーナーさんがお店とおすすめの本を紹介する記事もあり読者が両方に関心をもてる紙面となった。

■「まちの図書館応援隊」を図書館も応援して地域の活性化

図書館内でも「本でつながるまちのお店を紹介」の紹介本、チラシ、パンフレット、製品を借りて 図書館の関連資料と一緒に展示するコーナーを作成。目を引く展示で、貸出利用につながった。またお互いにSNSで発信も行き、お店への反響があったという声ももらっている。



新しい表紙



応援隊のページと展示の様子

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
広島県三次市十日市東三丁目
14番1号
人口
(図書館が所在する市町村)
4.8万人
職員数(うち有資格者数)
10人(9人)
蔵書数
約15万冊

取組の成果と今後

- ・紙面が一押し、紹介の本だけでなく、記事内容への問い合わせもあり、目に留まりやすくなった。
- ・応援隊の企業が、図書館イベントへの飲食ブースの出店にもつながるなど、図書館と地域企業との交流の幅が広がってきた。
- ・紙面に共感する企業の反響が大きく次年度は応援隊の数も増える予定。
- ・編集者との連携が出来たことで、職員を対象としたチラシの作成講座の研修を行い、職員のスキルアップにも繋がった。
- ・今後は応援隊による図書館でのワークショップやイベント参加を増やしたり、図書館を通じての情報発信から地域活性化に貢献していきたい。

44

講演会：『駆ける』を生んだ稲田幸久の頭の中

～おしえて稲田先生！『駆ける』誕生秘話から仕事との向き合い方まで～

北広島町図書館（広島県北広島町）URL: <https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/site/toshokan/>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

地元ゆかりの武将が登場する小説『駆ける 少年騎馬遊撃隊』の著者である稲田幸久氏をお招きし、図書館内で、稲田氏を講師として、作品の誕生秘話、作家という職業についての思い、一冊の本が人々に読まれるまでの過程などについてお話いただく講演会を実施した。また、同日地元の企業が企画した、稲田氏とともに町内の歴史館や小説の登場人物の墓所を散策するツアー（「稲田さんと巡る『駆ける』ツアー」）も行われた。

取組詳細

■ 講演会等の概要

日時：令和5年3月12日（日）13:30～
場所：北広島町図書館 本館多目的ホール
講師：稲田 幸久氏
（2021年「広島本大賞」受賞作『駆ける 少年騎馬遊撃隊』著者）

演題：『駆ける』を生んだ稲田幸久の頭の中

参加者：約60名

〈内容〉

- ・ 講演 『駆ける』誕生秘話、著名作家等とのエピソード
「広島本大賞」受賞後の“おれい旅”
作品を生み出す力、執筆スタイル など
- ・ 質疑応答
- ・ サイン会

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地元の企業（有限会社 大朝交通）と協力し、企業によるゆかりの場所の「散策ツアー」のあと「講演会」を実施することで、一日を通して作品を体感出来るスケジュールの計画
- ・ 様々な媒体（町内の公共施設や商店へのチラシの配架、町や図書館のSNS、武将の等身大パネル（戦国の庭歴史館から借用）、ケーブルテレビ等）を活用した広報の実施
- ・ 会場内で、関連図書や関連地域の観光協会から提供いただいたパンフレット等を展示するとともに、地元の歴史館（戦国の庭歴史館）が様々なグッズ（冊子、武将印、玉鋼など）を販売



講演会全体の様子



講演会チラシ



記念撮影

基本データ

（数値は令和5年現在）

住所
広島県山県郡北広島町新庄
1031-1
人口
（図書館が所在する市町村）
1.7万人
職員数（うち有資格者数）
15人（2人）
蔵書数
約11万冊

取組の成果と今後

■ 著名人を招き、他のイベントと連続性のある事業として実施することで、普段利用の少ない層や人々の図書館利用につながった。

■ 地元ゆかりのある本に関連したテーマを取り上げ、時代小説の面白さや奥深さを伝えたことにより、参加者の読書の幅を広げることができた。

■ 参加者アンケートでは、今後も、作家やプロフェッショナルな人物の話を聞きたいという意見が多くあった。今回、低迷する出版業界を明るくしたいという著者の思いと、利用者を増やし図書館を活性化させたいという図書館の思いの方向性は同じであると実感したことから、今後も同様の企画を行っていきたい。

45

地元書店存続のために

小豆島町立図書館（香川県小豆島町）

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

寄付金で購入する資料及び雑誌を地元書店から購入している。

取組詳細

小豆島町には3軒の書店があったが店主の高齢化が進み、現在は店頭で本を販売している書店は1軒のみとなった。小豆島町立図書館の蔵書は図書館流通センターを通して通常は購入している。

しかし、町民等から頂いた寄付金で購入する資料は地元書店から直接購入をしている。

平成19年度より年間約18万円分の資料を地元書店で購入し、町立図書館の蔵書に加えている。

令和3年度に頂いた寄付金は町立図書館だけでなく、各小中学校の学校図書館充実にも活用されている。

学校図書館に受入れる資料は地元書店にてカバーかけの装備を行い、学校司書の負担を減らすことができている。

令和3年度より小学校4校・中学校1校に年間約50万円分の資料を地元書店で購入し、各学校に寄贈している。

また、町立図書館で受け入れている雑誌のうち23誌は地元書店で購入している。

（残りの数誌は寄贈でいただいている。）



小学校寄贈本：人気で痛みの激しい資料を買い替え



小学校寄贈本：児童からのリクエスト本を購入



雑誌：購入している雑誌は全て地元書店に注文

基本データ

（数値は令和5年現在）

住所
香川県小豆島町安田甲
24-1
人口
（図書館が所在する市町村）
約1.2万人
職員数（うち有資格者数）
3人（3人）
蔵書数
約8.5万冊

取組の成果と今後

現在は継続して寄付金を頂いているため、一定額の金額を地元書店で購入することができている。町内唯一の地元書店は本の販売だけでなく、文具等の販売も行っており、図書館には欠かすことのできない店舗である。

地元書店存続のため、今後も資料購入の際は優先して発注することが必須であると考えられる。

46

図書館に書店が併設されていることの利点について

～図書館と書店の相乗効果～

武雄市図書館(佐賀県武雄市)

URL: <https://takeo.city-library.jp>

テーマ

環境整備

取組概要

・武雄市図書館内に蔦屋書店を併設

取組詳細

■当館では新刊や雑誌の所蔵が薄い。書店を併設し書店在庫本の館内読書も可とする事で、疑似的に図書館機能を補完。

■カフェも併設しており、コーヒーを飲みながら図書館や書店の本をカフェスペースで自由に読むことができる。
※蓋つきの飲みものなら一部エリアを除いて持ち込みもOK。

■図書と書店で下記ジャンルは近接した場所に展開。
※「料理」「旅行」「児童書」

■書店では本の他に文具雑貨も取り扱い。図書館で勉強や仕事をする利用者の利便性に寄与。

■書店では地元の物産品も取り扱い。武雄市図書館は観光名所の一つになっていることから、地元物産品のアピールにも寄与。

■書店を併設していることで作家による館内イベントを毎年実施している。書店としての来客増に寄与。

■作家による館内イベントを実施する際に、作家の書籍(新刊・既刊)の販売が可能。書店としての売上に寄与。
※書籍の手配から販売の運用がスムーズに行える。

■図書館の本を選書する際に、書店の現物を確認することができる。
※販売ランキングなどの市況を確認できる。



(武雄市図書館:図書館内書店部分)

基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	佐賀県武雄市武雄町 大字武雄5304-1
人口	(図書館が所在する市町村) 4.7万人
職員数(うち有資格者数)	41人(15人)
蔵書数	約25万冊

取組の成果と今後

■左記取り組みにより、2023年11月に実施した利用者アンケートの中でも書店と書店の本が読める環境についての満足度は一定の評価を頂いている。

	満足点	2023
年中無休		65.7%
開館時間が夜9時まで		42.0%
豊富な種類の雑誌・書籍が購入できる		20.8%
販売用の雑誌・書籍が自由に読める		25.6%
自動貸出機(セルフカウンター)がある		17.0%
スターバックスが併設されている		55.8%
館内で飲み物が飲める		55.4%
居心地の良い空間である		64.4%
Tカードで本の貸出ができる		17.3%
司書講座やマルシェなどの催しが充実している		4.8%
様々なワークショップ・イベントが開催されている		8.0%
本が探しやすい		9.3%
興味深い本と出会える		22.1%
歴史資料館が併設されている		5.1%
その他		5.8%
無回答		1.9%

■今後も市民の利便性を追求しながら、インバウンド対応も考慮した図書館を目指す。

「本のまち 文化のまち あらお」を目指して

～つたえる・つながる・つづく図書館～

荒尾市立図書館(熊本県荒尾市)

URL: <http://www.arao-lib.jp>

テーマ

環境整備

取組概要

商業施設内への移転整備を機に、図書館と書店がタッグを組み、蔵書を同時に検索・貸出・購入もできるシステムの導入、書店の出版社とのネットワークを活用して作家のトークショーや子ども向けのスタンプラリーなど魅力的なイベントを開催し、商業施設の活性化にも貢献、多世代が集う「みんなのサードプレイス」を目指す。

取組詳細

R4年4月、市唯一の市立図書館を商業施設内に移転整備。内装設計の段階から書店や商業施設と協議を重ね、図書館、書店、カフェが一体となった「あらお本の広場」をオープン。図書館の指定管理者として㈱紀伊国屋書店が運営を行い、図書館に隣接し書店も出店することで、多様な連携の取組が可能となり、多世代が交流する場となっている。



●図書館・書店・カフェの一体整備



●図書館と書店の検索機を隣接&電子書籍の検索・貸出・購入システム

●書店(出版社)と連携した図書館イベント
・ウォーリーを探せ(図書館内でキャラクターを探すスタンプラリー)
・缶バッジづくり(ノラネコぐんだん・おしりたんでい など)

●図書館・書店(出版社)・商業施設との連携イベント
※商業施設の開放的な空間での講演会の開催
・熊本県出身の作家 姜尚中さん講演会(右写真→)
・絵本作家 宮西達也さん講演会
・作家 海堂尊さん講演会など



基本データ (数値は令和5年現在)	
住所	熊本県荒尾市緑ヶ丘1丁目1番地1
人口	(図書館が所在する市町村) 約5.0万人
職員数(うち有資格者数)	21人(7人)
蔵書数	約11万冊

取組の成果と今後

商業施設内への移転により、図書館に立ち寄る人が増えたことで、市内だけでなく市外や県外からも多くの来館者があっており、令和4年度の来館者数は当初目標としていた15万人を大きく上回る約29万人となった。

また、書店の本の売り上げだけでなく、商業施設全体の売り上げも増えるなど、好循環も生んでいる。

これからも図書館において新たなイベントを開催し、利用者を飽きさせない取組を展開し、図書館・書店等との連携により、「本」を中心に多世代が気軽に過ごせる空間づくりを行うとともに、地域の活性化にも取り組んでいきたい。

絵本作家黒川先生と恐竜の絵を描こう！

～親子で楽しむワークショップ～

宇佐市民図書館(大分県宇佐市) URL: [宇佐市民図書館 \(usa-public-library.jp\)](http://usa-public-library.jp)

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事
図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

絵本作家によるワークショップとサイン会
地元書店によるサイン用絵本販売

取組詳細

- ① 第三次宇佐市子ども読書活動推進計画実施事業として、講演会、原画展やワークショップなど作家と関わりが出来る事業を実施。令和4年度は長野ヒデ子先生の講演会、令和5年度は黒川みつひろ先生のワークショップ。サイン用の本を販売。
- ② 図書館の本・雑誌は、地元書店による書店組合を通して購入。



恐竜の体について説明する黒川先生。

<令和5年度イベント詳細> 10/9 参加者 2-15歳 50名および保護者
・市の広報でイベントお知らせ、QRコードで参加者を募集(先着50名)3日で定員に
・イベント当日 地元書店が館内でサイン用の本などを販売(黒川先生がリスト選定)
・黒川先生による恐竜の体の解説、描き方教室
・恐竜クイズ、質問タイム、黒川先生が描いた恐竜の絵をもらえるじゃんけん大会
・終了後サイン会 サインを待っている間、黒川先生が持参した化石を触る時間

その後の展開



12月、黒川先生から「ぬりえとめいろ」のデータが届き、福袋の表紙などとして配布。



1月、子どもたちのぬりえと、干支にちなんだ恐竜・恐竜の本(黒川先生のイベントで描いた絵を含む)をギャラリーに展示。



勝つと絵がもらえる、全員参加のじゃんけん大会。会場の絵は黒川先生のデータから掲示。

取組の成果と今後

参加者の感想から
・中学1年の息子は、黒川先生の絵本と出会い、図書館に通いつめ、本は全部読みました。まさか先生にお会いできる機会があるとは思っていませんでした。今回のイベントはとてうれしく思います。
・5歳の子には難しいかと思いましたが、黒川先生がわかりやすく教えてください、子供も楽しんで描いていました。宇佐にお越しいただき本当にありがとうございました。

令和6年度策定予定の第四次子ども読書活動推進計画策定に活かす。

49

おすすめ本交換展示・スタンプラリー

鹿児島市立天文館図書館(鹿児島県鹿児島市)

<https://lib.kagoshima-city.jp/tenmonkan/index.html>

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

- ① 図書館のスタッフと、書店のスタッフが作成したおすすめ本ポップを交換し展示した。
- ② 鹿児島市の天文館周辺の図書館、文学館、書店の連携事業として、各施設を巡りスタンプを集めるスタンプラリーを開催した。

取組詳細

鹿児島市立天文館図書館は鹿児島市の中心市街地である天文館の商業施設(センテラス天文館)の中にある。書店等の連携事業として、近隣商業施設(マルヤガーデンズ)内の書店との交換展示および、近隣古書店、文学館とのスタンプラリーを実施した。

■ Junk堂書店・天文館図書館 コラボ展示「偏愛本」
Junk堂書店鹿児島店と、鹿児島市立天文館図書館との連携事業として、それぞれのスタッフが「偏愛本」をテーマに作成したおすすめ本ポップの交換展示を行った。

【連携先】Junk堂書店鹿児島店
【期間】2023年2月1日～3月14日



天文館図書館の様子 Junk堂書店の様子

■ 天文館周辺書店・かごしま近代文学館・天文館図書館 コラボスタンプラリー「かごしま春の本めぐり」
鹿児島市の中心市街地である天文館周辺にある古書店と文学館との連携事業としてスタンプラリーを実施した。
書店で2個、公共施設で1個、計3個のスタンプを集めた方に景品をプレゼントした。

【連携先】古書リゼット・古本屋ブックスパーチ・books selva・かごしま近代文学館
【期間】2023年4月30日～5月14日
【スタンプカード配布枚数】100枚(天文館図書館のみ)



基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
鹿児島県鹿児島市千日町1-1
人口
(図書館が所在する市町村)
60万人
職員数(うち有資格者数)
29人(16人)
蔵書数
約4万冊

取組の成果と今後

どちらの取組も各施設間の回遊を期待し、実施した。ポップ交換展示の際、図書館から書店を案内したり、書店にある図書館スタッフのポップを見た方が、スタンプに感想を伝えに来てくださるなど、期待通りの回遊を実際に感じる事ができた。スタンプラリーは、途中で景品が足りなくなるなど、想定以上に参加してくれる方が多かった。スタンプラリーは、次年度も引き続き連携事業として継続する予定である。

50

図書館と書店で育てる読書リーダー

～沖縄県高校生読書リーダー育成研修～

沖縄県立図書館(沖縄県教育委員会)

テーマ

図書館と書店等が連携して行う特色ある読書活動・行事

取組概要

不読率改善のために各学校で約半年間の探究活動を行う「沖縄県高校生読書リーダー育成研修」。そのリーダー育成のための3日間の研修で、1日目を県立図書館、2日目をジュンク堂那覇店で行い、本のプロである図書館と書店で高校生読書リーダーの育成に関わっている。

取組詳細

■ 研修① 沖縄県立図書館

1. 読書リーダー育成研修概要説明 県教育庁指導主事
2. 前年度実践事例発表 発表者:前年度参加校
3. ワークショップ①「アイズブレイク」講師:琉球大学教授
4. ワークショップ②「記憶に残る1冊に出会うには」講師:琉球大学教授
5. 講義「図書館の役割」講師:県立図書館司書
公立図書館の役割、司書の役割、図書館の自由宣言について など
6. 県立図書館バックヤードツアー 案内:県立図書館職員



県立図書館でのワークショップ

■ 講義② ジュンク堂書店那覇店

1. 講義「ジュンク堂店長が実践する本屋さんの工夫」
講師:ジュンク堂那覇店エグゼクティブプロデューサー(EP)
ジュンク堂における工夫、書店の役割、出版業界の仕組み など
2. ワークショップ:「本屋さんに学ぶPOP講座」
「夏」をテーマとした本を店内で探し、その本にあうPOPを作成する
3. ジュンク堂那覇店バックヤードツアー



ジュンク堂那覇店での研修

■ 最終報告会

県立図書館にて最終報告会を実施。ジュンク堂那覇店職員も参加。



基本データ
(数値は令和5年現在)

住所
沖縄県那覇市泉崎1-20-1
人口 146万人
職員数(うち有資格者数) 56人(27人)
蔵書数 約35万冊

取組の成果と今後

①県立図書館の司書が講義を行った。読書リーダーとして活動を行うにあたり、図書館の役割の重要性について学んだ。また県立図書館のバックヤードツアーで普段見ることのできない自動化書庫や修復作業の様子を見て感激していた。

【生徒感想】

普段見れない図書館の裏側を案内してもらったりして県立図書館についてもっと興味を持たし楽しかった。

②「夏」をテーマとした本をジュンク堂書店内を探し回りPOPを作成、発表し、書店EPに講評してもらった。

【生徒感想】

本の魅力だけでなく、どんな人におすすめだとか、役に立つことなどを書いて、少しでも興味を引かせることが重要と分かりました。